

西山ノ上遺跡 (3次・4次調査)

福岡県八女市室岡所在遺跡の発掘調査報告書

八女市文化財調査報告書 第99集

2013

八女市教育委員会

西山ノ上遺跡

(3次・4次調査)

福岡県八女市室岡所在遺跡の発掘調査報告書

八女市文化財調査報告書 第99集

2013

八女市教育委員会

序

八女市の西部、筑後市と境を接する室岡台地を中心とした地域には数多くの弥生時代の遺跡が地下に存在していると考えられ、相当数の土器や石器などの破片が地表に姿を現しています。その様相を見ると、まさに『弥生銀座』が地面の下に眠っていると言っても過言でない状況です。

室岡台地における本格的な発掘調査の開始は古く、昭和38年の亀ノ甲遺跡に始まります。

亀ノ甲遺跡の調査は遺跡地の土取り作業を発端として始まり、福岡県教育委員会・八女市教育委員会・九州大学考古学教室が主体となって調査が行われました。弥生時代前・後期の環濠集落や甕棺や石棺墓が多数発見され脚光を浴び、この室岡台地に眠る弥生時代の遺跡群が北部九州の、特に福岡県南部地域においてその重要性が非常に高いと認識されるようになった大きなきっかけをつくった遺跡でもあります。

しかし、その後も農地の地下げや住宅の建設等があり小規模な発掘調査が幾度か行われ、亀ノ甲遺跡以外にも周辺には大規模な遺跡がほぼ台地全域に遺跡が広がっている事が確認されました。

近年では国道442号線バイパス建設に伴う大規模な発掘調査や民間開発事業に先立つ調査等により、これまで謎であった環濠集落の規模や形態、古代人の生業の一部が分かるようになり、弥生時代の拠点的な集落であった事がより明確になりました。

今回の報告は、室岡台地にある西山ノ上遺跡で平成22年度から23年度にかけて行われた土取り工事と個人住宅建設にかかる発掘調査についてのものです。この報告書が当該遺跡のみならず、市内に点在する文化遺産を深く理解する一助となり、より文化財愛護の心を育むことに寄与出来るのであるならば幸甚の極みであります。

最後に、当該遺跡の発掘調査に格段のご理解を頂きました地権者様をはじめとする関係各位、及び、地元町内の皆様方には並々ならぬご協力と応援を頂きました。

深く御礼を申し上げますとともに、今後の文化財行政につきまして、これまで以上の暖かいご声援を賜りますよう重ねてお願い申し上げます。

平成25年3月31日

八女市教育委員会

教育長 西 島 民 生

例 言

- 1 本書は、八女市教育委員会が八女市室岡に所在する弥生時代後期を中心とした西山ノ上遺跡において、平成22年度に株式会社 大石茶園 代表取締役 大石剛司より委託を受けて八女市教育委員会が実施した3次調査と、平成23年に大石剛司個人より委託を受けて実施した4次調査の発掘調査報告書である。
- 2 発掘調査は八女市教育委員会が主体となって実施した。
西山ノ上遺跡3次調査における現地調査は平成23年1月8日から同年3月31日まで行い、4次調査は平成23年5月27日から同年7月27日まで行った。
本報告に伴う整理作業は平成24年度に一括して行った。
- 3 発掘調査で検出した各遺構は、その種類ごとに記号を付し、竪穴住居をSH、掘立柱建物をSB、溝状遺構をSD、土壇をSK、ピットをSP、不明遺構をSXと表記した。
- 4 本書に使用した測量図の作成は国土地理院の設定する第Ⅱ座標系を基準とした。各種測量図の浄書及び出土遺物の実測図作成・浄書は岩戸山歴史資料館において行った。
- 5 本書に使用した現地写真は永田が撮影したものである。出土遺物については岩戸山歴史資料館において永田が撮影した。
- 6 本書使用の方位については、すべて真北である。
- 7 本書の執筆、及び、編集については永田が行った。
- 8 本書に関する調査記録、及び、出土遺物は現八女市の岩戸山歴史資料館において保管・収蔵している。

本文目次

1 調査の経過

A 調査に至る経過

B 調査体制

2 遺跡の立地と歴史的環境

3 調査の内容

A 発掘調査の概要

B 3次調査

1) 遺構と出土遺物

C 4次調査

1) 遺構と出土遺物

図版 (PLATES)

P L 1 ~ 2 西山ノ上遺跡 3次調査

P L 3 ~ 6 西山ノ上遺跡 4次調査

P L 7 3次調査出土遺物

P L 8 ~ 11 4次調査出土遺物

挿 図 目 次

- 第 1 図 西山ノ上遺跡 (3・4次調査) 周辺遺跡分布図 [1/25, 000]
- 第 2 図 西山ノ上遺跡 (3・4次調査) 位置図 [1/5, 000]
- 第 3 図 西山ノ上遺跡 (3次調査) 遺構配置図 [1/300]
- 第 4 図 西山ノ上遺跡 (3次調査) 1号竪穴住居 実測図 [1/60]
- 第 5 図 西山ノ上遺跡 (3次調査) 5号竪穴住居 実測図 [1/60]
- 第 6 図 西山ノ上遺跡 (3次調査) 1号井戸 実測図 [1/60]
- 第 7 図 西山ノ上遺跡 (3次調査) 2号土壌 実測図 [1/60]
- 第 8 図 西山ノ上遺跡 (3次調査) 4号溝状遺構 土層図 [1/60]
- 第 9 図 西山ノ上遺跡 (3次調査) 5号竪穴住居 出土遺物実測図 [1/3]
- 第 10 図 西山ノ上遺跡 (3次調査) 1号井戸 出土遺物実測図 [1/4]
- 第 11 図 西山ノ上遺跡 (3次調査) 3・4号溝状遺構 出土遺物実測図 [1/3]
- 第 12 図 西山ノ上遺跡 (4次調査) 遺構配置図 [1/200]
- 第 13 図 西山ノ上遺跡 (4次調査) 1号竪穴住居 実測図 [1/60]
- 第 14 図 西山ノ上遺跡 (4次調査) 2号竪穴住居 実測図 [1/60]
- 第 15 図 西山ノ上遺跡 (4次調査) 3号竪穴住居・7号土壌 実測図 [1/60]
- 第 16 図 西山ノ上遺跡 (4次調査) 4号竪穴住居 実測図 [1/60]
- 第 17 図 西山ノ上遺跡 (4次調査) 5号竪穴建物 実測図 [1/60]
- 第 18 図 西山ノ上遺跡 (4次調査) 6号竪穴建物 実測図 [1/60]
- 第 19 図 西山ノ上遺跡 (4次調査) 8号不明遺構 実測図 [1/60]
- 第 20 図 西山ノ上遺跡 (4次調査) 9号不明遺構 実測図 [1/60]
- 第 21 図 西山ノ上遺跡 (4次調査) 1号竪穴住居 出土遺物実測図 [1/4]
- 第 22 図 西山ノ上遺跡 (4次調査) 2号竪穴住居 出土遺物実測図 [1/4]
- 第 23 図 西山ノ上遺跡 (4次調査) 3号竪穴住居 出土遺物実測図 [1/4]
- 第 24 図 西山ノ上遺跡 (4次調査) 4号竪穴住居 出土遺物実測図 [1/4]
- 第 25 図 西山ノ上遺跡 (4次調査) 5・6号竪穴住居 出土遺物実測図 [1/4]
- 第 26 図 西山ノ上遺跡 (4次調査) 7号土壌 出土遺物実測図 [1/3]
- 第 27 図 西山ノ上遺跡 (4次調査) 7号竪穴住居, 3~5・8・11~14号不明遺構
出土遺物実測図 [1/3]
- 第 28 図 西山ノ上遺跡 (4次調査) 1・2・4号竪穴住居, 23号不明遺構
出土石製品実測図 [1/3]
- 第 29 図 西山ノ上遺跡 (4次調査) 1~4号竪穴住居, 1号不明遺構 出土石製品実測図 [1/2]
- 第 30 図 西山ノ上遺跡 (4次調査) 1・2号竪穴住居・7号不明遺構 出土鉄器実測図 [1/2]
- 第 31 図 西山ノ上遺跡 (4次調査) 1号竪穴住居 出土石製品実測図 [1/3]
- 第 32 図 西山ノ上遺跡 (4次調査) 3号竪穴住居屋内土壌 出土石製品実測図 [1/3]

1 調査の経過

A 調査に至る経過

八女市の西部に位置している室岡台地周辺は、本格的な発掘調査に着手される以前より採取される甕棺などの弥生時代の遺物から、八女市内においても有数の埋蔵文化財包蔵地であると一部研究者の間では注目を受けていた。

平成13・14年度に行われた西山ノ上遺跡1次調査・2次調査は、八女市を東西に貫く国道442号線バイパス建設事業計画地にあった室岡台地の株式会社、大石茶園の店舗及び工場移転に伴うもので、9棟の竪穴住居から鉄片類や大型砥石、被熱硬化面などの鍛冶関連遺物・遺構の発見といった成果をあげた。

3次調査は平成22年、1次・2次調査区の東側に隣接する地区で土取り作業が計画され、八女市教育委員会が遺跡の広がりを確認するための調査を行ったところ、竪穴住居らしき遺構が確認できた。地権者との協議により、同年度の平成23年1月18日から約1,600㎡の本調査を行い、遺跡の記録保存につとめることとなった。

4次調査は平成23年、1次調査区の北東側において個人住宅の建設が計画され、八女市教育委員会による当該地の確認調査の結果、遺跡の存在が明らかとなった。地権者との協議の結果、約200㎡の本調査を実施することとなった。作業員をつかつての調査は5月24日から行い、遺跡の記録保存に努めた。

B 調査体制

【平成22年度】3次調査

〔調査主体〕 八女市教育委員会

教育長 西島 民生

教育部長 飯田 せつ子

文化課長 井上 富雄

同 係長 中川 寿賀子

同 係員 大塚 恵治

同 係員 永田 寧

同 係員 樋口 真弓

調査作業員 浅田 身鈴途 石井 勇 今村 眞二 内田 正信 鵜木 洋子 末崎 節生

谷川 富重 谷川 義則 月足まつみ 鶴賀 久博 永見 望夢 橋村 照子

松崎 仁利 横谷恵理子

4 次調査

八女市教育委員会

西島 民生

飯田 せつ子

井上 富雄

同 係長 大塚 恵治

同 係員 永田 寧

同 係員 渡部 真弓

調査作業員 石井 勇 鵜木 洋子 末崎 節生 谷川 義則 月足まつみ 鶴賀 久博

橋村 照子 横谷恵理子

整理作業

八女市教育委員会

西島 民生

井上 俊博

井上 富雄

同 係長 大塚 恵治

同 係員 永田 寧

同 係員 渡部 真弓

整理作業員 藤川 広美 野口 由妃 野間口靖子 由布 淳子

なお、発掘調査にあたり、地権者である大石剛司様をはじめとし、近隣に居住される住民の皆様、そして室岡地区の方々には多大なるご配慮とご理解をいただきましたことに感謝の意を表します。

2 遺跡の立地と歴史的環境

【地理的環境】

八女市は平成22年2月1日に旧八女郡に所在していた立花町、黒木町、星野村、矢部村の2町2村と合併し、福岡県下で2番目に広い行政区域をもった新たな「八女市」としてスタートする事となった。

現在、東を大分県日田市、南を熊本県山鹿市と接する広大な県境の自治体となり、多様な生産活動が見られる希有な行政体となっている。東の山間部では杉や檜を中心とした林業が盛んであり、その地形を巧みに利用した文化的景観としての棚田も多数見られる。また、中山間部においては地域の気象条件の恩恵を受け、高級茶葉である玉露や良質な巨峰などの生産が盛んに行われている。平野部では福岡県産の苺の主力である「あまおう」や梨、電照菊などを生産している。

これらの生産活動を可能にしている立地は、耳縄山地と福岡・熊本両県を区する筑肥山地により「コ」の字状に囲まれ、大分県との境にそびえる釈迦岳山地に源を発し有明海に向け西流する一級河川である矢部川が形成したものである。古くは水上運搬に供され現市域で行われた産業すべての要であった。

しかしながら、時代の流れとともに八女市内で生産される文物の大半は陸上輸送に徐々にシフトし、今では水上輸送手段はほぼ皆無となっている。

現在の交通事情を概観すると、八女市内には大分県まで延びる国道442号線が東西に走り、交通量の増大に比例しバイパス道路の建設・開通も急ピッチで進んでいる。また、西部地区には九州の大動脈である国道3号線や九州縦貫自動車道が南北を貫いており、本発掘調査が行われた室岡地区はまさに九州のクロスロード的な性格を持っている。

【歴史的環境】

西山ノ上遺跡は八女市室岡字西山ノ上に所在している。

当該遺跡周辺は、以前からの発掘調査等の成果により、弥生時代遺跡の一大密集地区であることが先学によって指摘されていた。ここでは西山ノ上遺跡が所在する室岡遺跡群をより理解するため、これまでに発掘調査を受けた周辺の遺跡を中心に、八女市西・南西部における弥生時代遺跡についての概略を記述する。

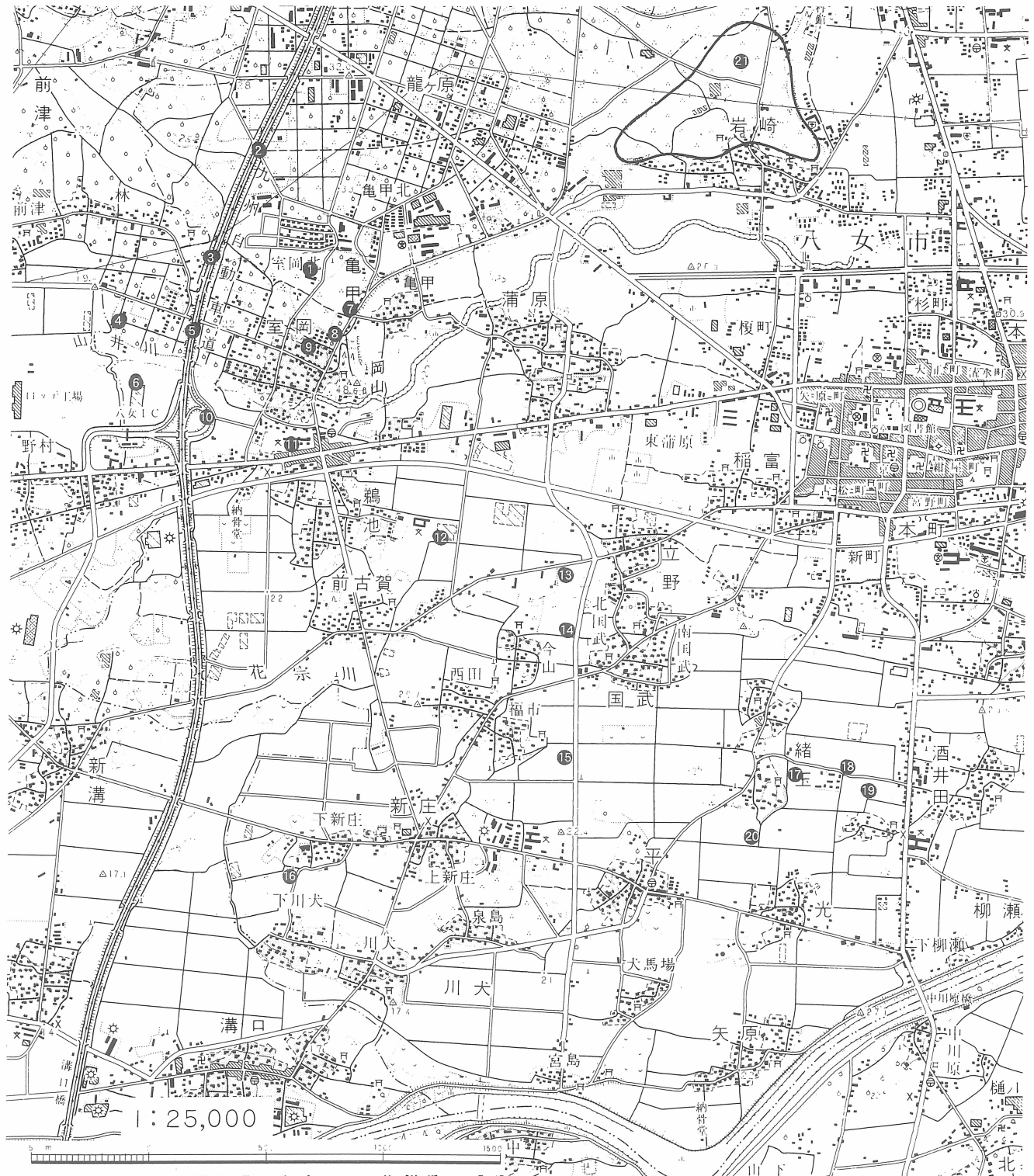
現在、当地域における弥生時代最古段階の遺跡は亀ノ甲遺跡と宿町遺跡、立野大坪遺跡が挙げられる。3遺跡とも弥生時代前期後半ごろの環濠集落であるが、宿町遺跡（単環濠）と立野大坪遺跡（二重環濠）は直径が100m前後と比較的小規模なうえに貯蔵穴専用環濠と考えられるのに対し、亀ノ甲遺跡（単環濠？）は推定直径200mの規模を有し、未確認ながら環濠集落的な内容を十分に持つ遺跡である。市内ではいまだ当該期にかかる本格的な稲作遺跡は発見されていないが、稲作と環濠遺跡はセット関係になることが多く、前期後半以前には稲作が定着していたものと考えられる。

中期に入ると、これまで見られた様相とは異なった状況が展開する。中期前半から中頃にかけては竪穴住居が散発的にしか存在しないようになり、環濠のような大規模な土木工事を伴う遺構は全く確認できないようになる。ところが中期後半ごろになると、六反田遺跡のように大規模な集落域と墳墓域がセットになって出現するなど、再び大規模な土木工事を伴う大集落形成の萌芽がみられるようになる。また、前述した立野大坪遺跡等から鉄器が出土するようになるなど、その普及と相前後し、変化の著しい時代様相の到来が看取できる。

後期に入ると、各地で大規模な集落が形成されるようになる。室岡地区では野口遺跡や道添遺跡、室岡工業団地内遺跡等があり、後二者からは鉄器や砥石が数点出土している。矢部川に面した南部地区では、現在は墳墓域も存在することから、近接した区域に大規模な集落が存在するものと思われる。また、同地

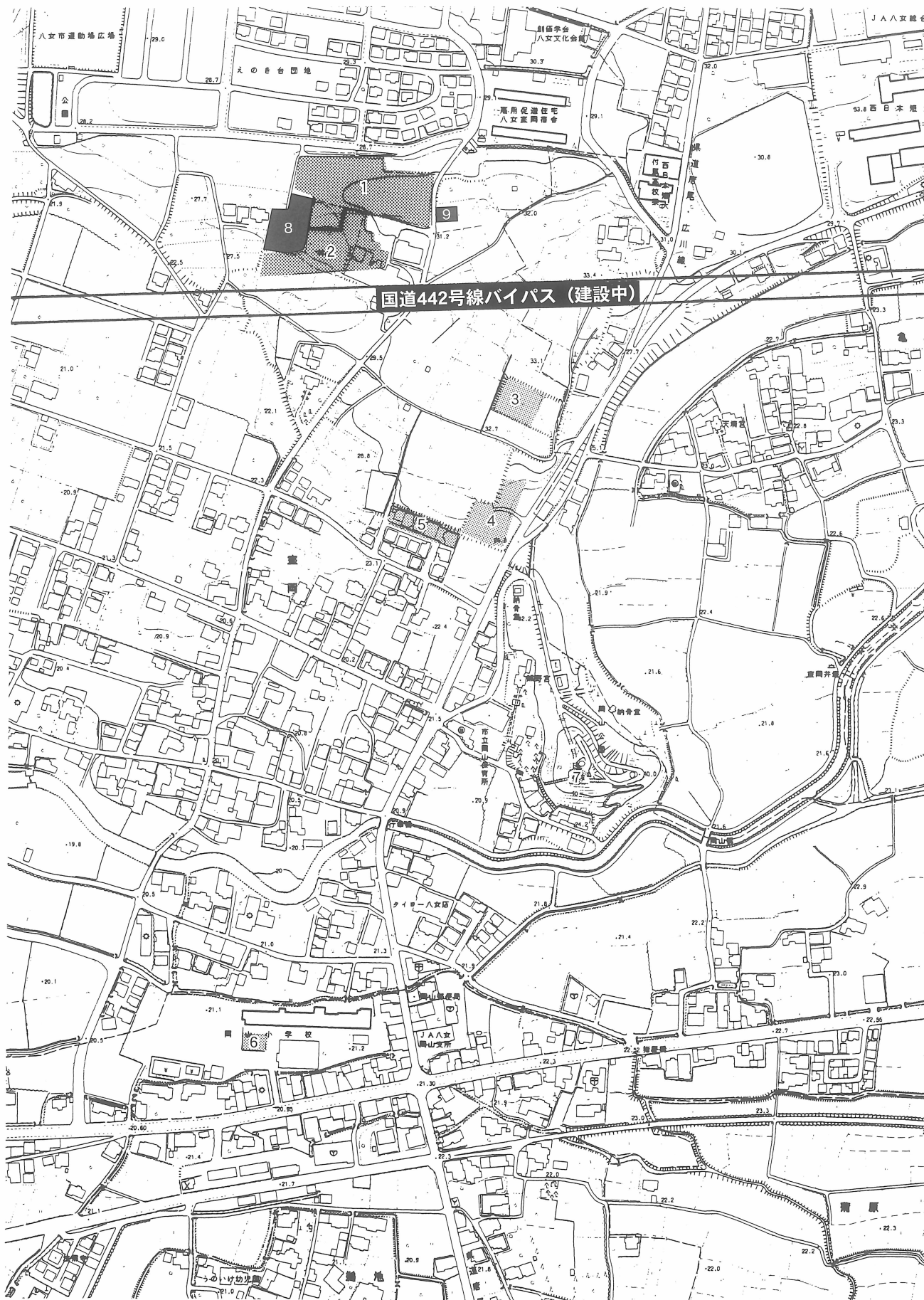
区内に所在する茶ノ木ノ本遺跡の甕棺墓群からは内行花文鏡、深樋式銅剣、鉄戈が出土しており、これらの事象は在地有力者の台頭とともに大規模集落同士の統合が進んでいることを示唆している。

今回報告を行う西山ノ上はこの弥生時代後期に属し、大規模な環濠集落を形成しつつ集落内における鉄器の製作等、周辺他集落とは隔絶した動向を見せながら、激動する時代の中、地域を牽引していたものと思われる。



1. 西山ノ上遺跡 2. 西中沢遺跡 3. 坊野遺跡 4. 弥五郎遺跡 5. 野口遺跡 6. 室岡工業団地内遺跡
6. 室岡工業団地内遺跡 7. 山ノ上遺跡 8. 亀ノ甲遺跡 9. 北小路遺跡 10. 道添遺跡
11. 岡山小学校校庭遺跡 12. 樋ノ口遺跡 2次 13. 立野大坪遺跡 14. 篠原遺跡 15. 中里遺跡
16. 六反田遺跡 17. 野田遺跡 18. 深田遺跡 19. 京田遺跡 20. 宿町遺跡 21. 岩崎遺跡群

第1図 西山ノ上遺跡(3・4次調査) 周辺遺跡分布図〔1/25,000〕



1. 西山ノ上遺跡 1次調査 2. 西山ノ上遺跡 2次調査 3. 室岡山ノ上遺跡 (2次・3次)
 4. 亀ノ甲遺跡 5. 北小路遺跡 6. 岡山小学校校庭遺跡 7. 岡山公園遺跡 8. 西山ノ上遺跡 3次調査
 9. 西山ノ上遺跡 4次調査

第2図 西山ノ上遺跡 (3・4次調査) 位置図 [1/5, 000]

〔3 次調査〕



第3図 西山ノ上遺跡（3次調査） 遺構配置図〔1／300〕

3 調査の内容

A 発掘調査の概要

今回の発掘調査の発端は株式会社 大石茶園からの、1次調査の南西側の土地において開発を行いたいという連絡による。開発の内容は大石茶園（以下、事業者）によると、新設された442バイパス沿線の開発のために道路との高低差を解消する土取り工事を行いたいといったものだった。協議の上確認調査を行ったところ竪穴住居と思われるものが発見されたので、本調査を行うこととなった。これが3次調査で、続く4次調査は3次調査中に1次調査区の東側において個人住宅を建設したいとの連絡があり、確認調査を行ったところ、遺構が広がっているのが確認できた。事業者と協議したところ、早急に工事に取り掛かりたいとのことだったので3次調査に引き続いて調査を実施することが決定し、事業者から発掘調査業務を教育委員会が受託し、本調査を行うこととなった。

B 3次調査

概要

3次調査は弥生時代から平安時代にいたる遺構が検出された。検出された遺構は竪穴住居、土壇、溝、井戸などである。平成14年度の2次調査で検出された溝（SD01）が調査区内に伸びている。遺構の密度は低い。

1) 遺構と出土遺物

(1) 竪穴住居

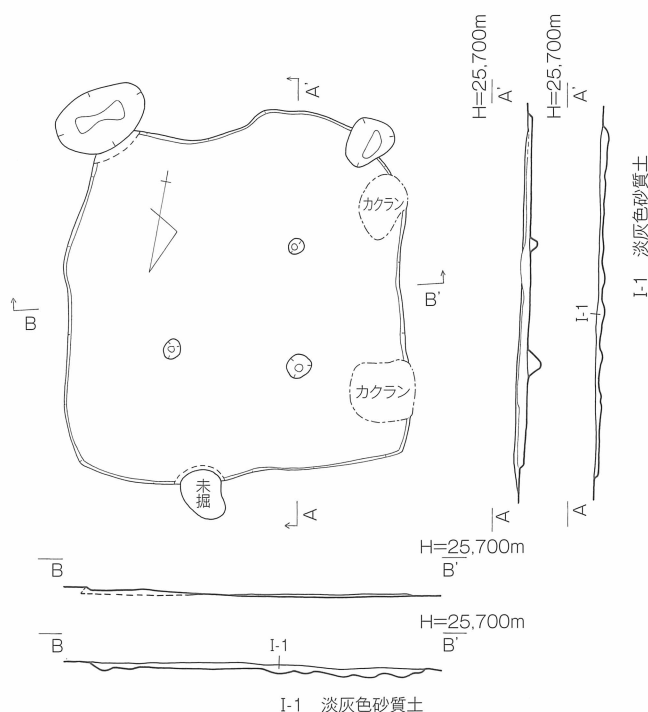
3次調査では2軒の竪穴住居が検出された。

1号竪穴住居（SH-01）〈第4図〉

調査区東側で検出した竪穴住居で、規模は2.7m×2.7m、状態は悪く深さ0.1m未満である。支柱は4本か。図化できるような遺物の出土は無い。

5号竪穴住居（SH-05）〈第5図〉

調査区北東側で検出した隅丸方形の竪穴住居で、炭化材が見受けられ、焼失したものと思われるが状態は良くない。規模は4m×4.2m+α、西側が攪乱を受けている。深さ0.2m程度。支柱穴は不明。北東側の壁中央部には隅丸方形の屋内土壇が付設され、北東壁側に向かって両脇に小ピットを併せ持つ。南側コーナーにベッドが付設され、壁面の一部には板状痕跡が認められる箇所がある。中央に炉を設ける。出土遺物は弥生後期の甕、ミニチュア土器がある。



第4図 1号竪穴住居 実測図〔1/60〕

(2) 井戸・土壌

1号井戸 (SX-01) <第6図>

調査区の南西側で検出した井戸である。当初近代の攪乱と考えSXとしていたところ、深さが4m近くに達し、底部にちかいところで陶磁器類が出土したので井戸とした。直径3mで、深さ3.8m。遺物として土師器皿、瓦器片、青磁皿片、石鍋片、播鉢片など。

2号土壌 (SK-02) <第7図>

1号井戸の西側で検出した土壌である。直径は1mで、出土遺物に図化できるようなものはない。

2・3号溝状遺構

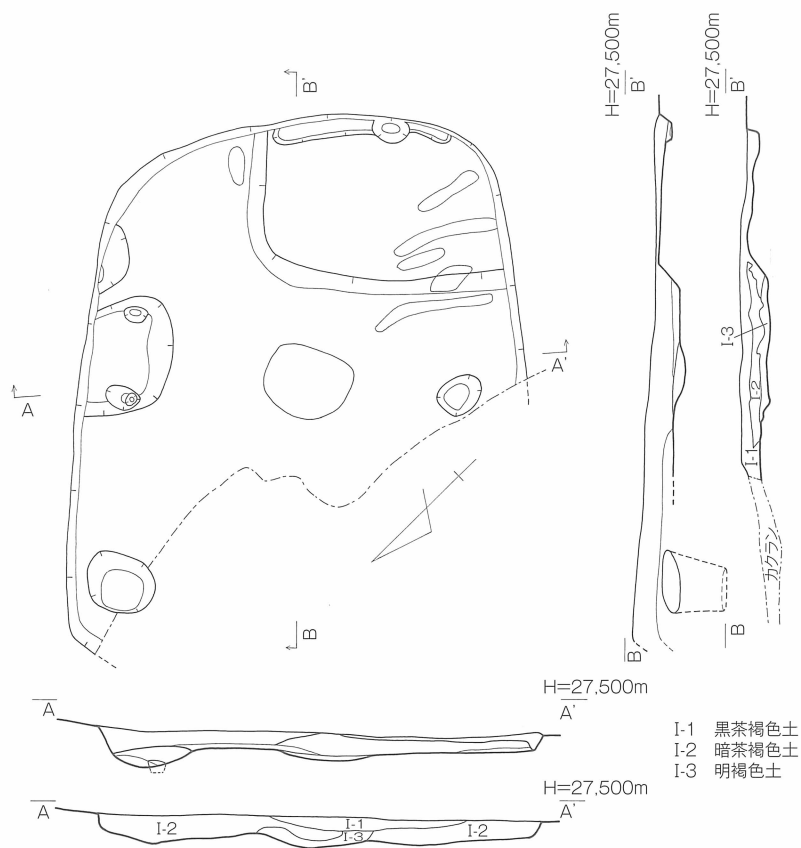
(SD-02・03)

調査区を東西に横断する溝状の遺構である。幅0.5m～1m程度で深さ0.1～0.3m、溝底面から眼鏡やバーコードのついたチラシなどが出土し、ごく最近埋没したものと考えられる。

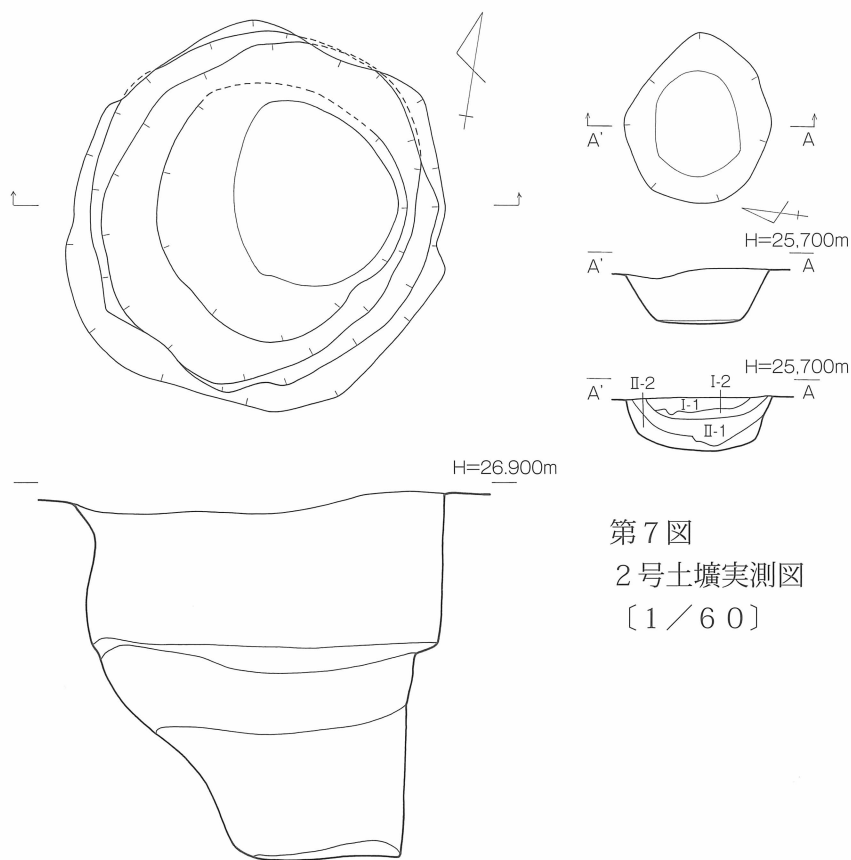
4号溝状遺構 (SD-04)

<第8図>

平成13年度の国道442号バイパスにかかる調査においてSD02、平成14年度の2次調査においてSD01とされた溝状遺構で、今回の調査では2次調査区側から西に2.5mほど進んだところで南側に直角に屈曲し、19.5mを測ったところで南端から調査区外に抜ける。幅1.1m～2.0m、深さ0.2m～0.3mを測る。溝の断面形は逆台形をなしている。2次調査時に見られたような焼土や炭化物の混入は認められない。出土遺物として、土師器皿、瓦器片、青磁片、白磁片がある。

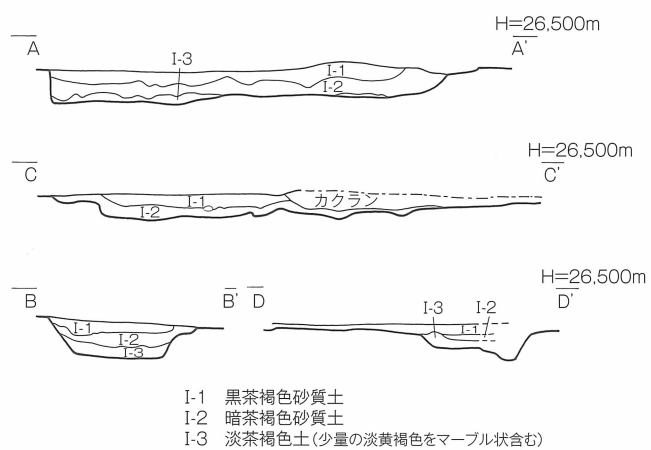


第5図 5号縦穴住居 実測図〔1/60〕

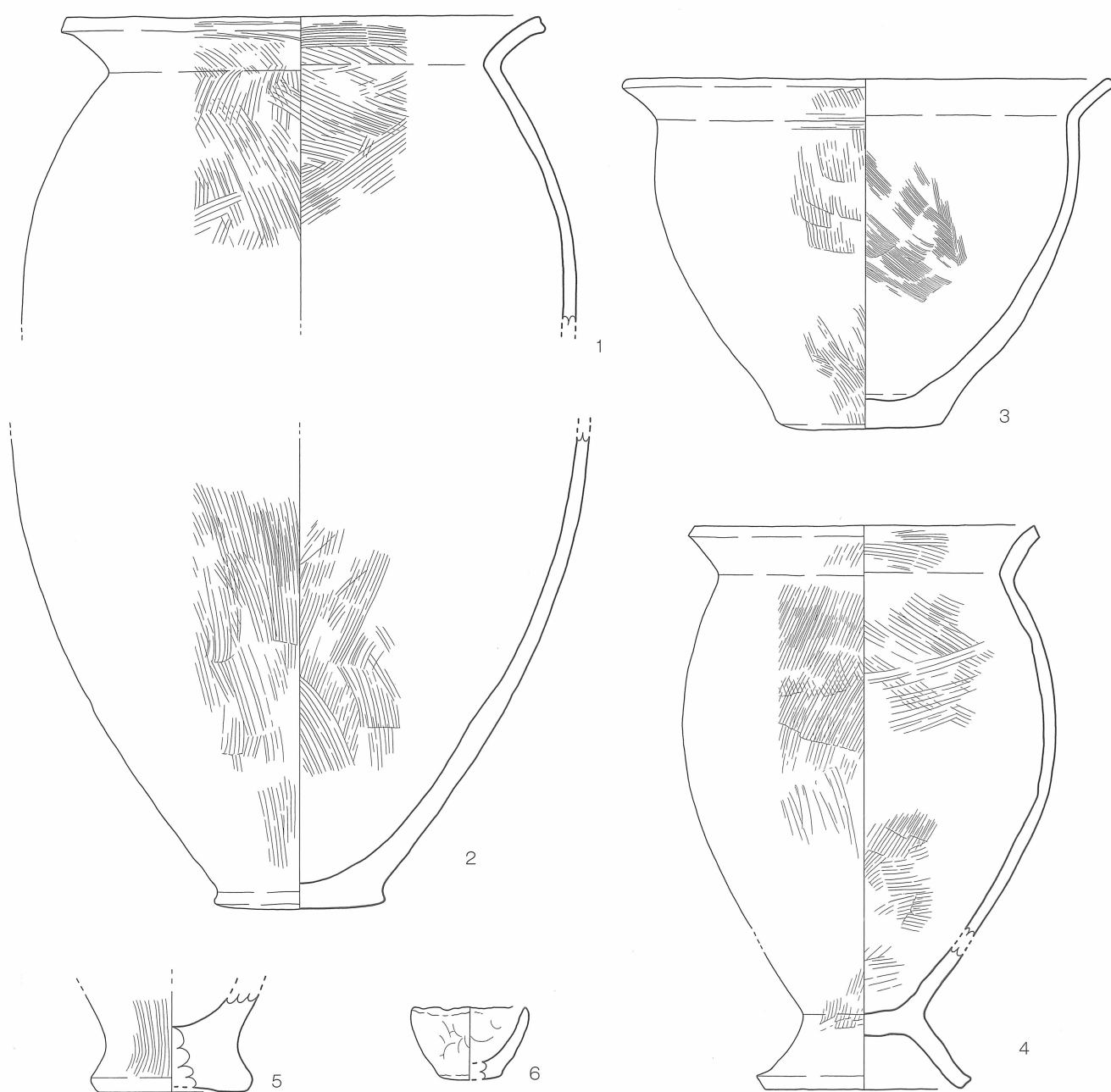


第7図
2号土壌実測図
〔1/60〕

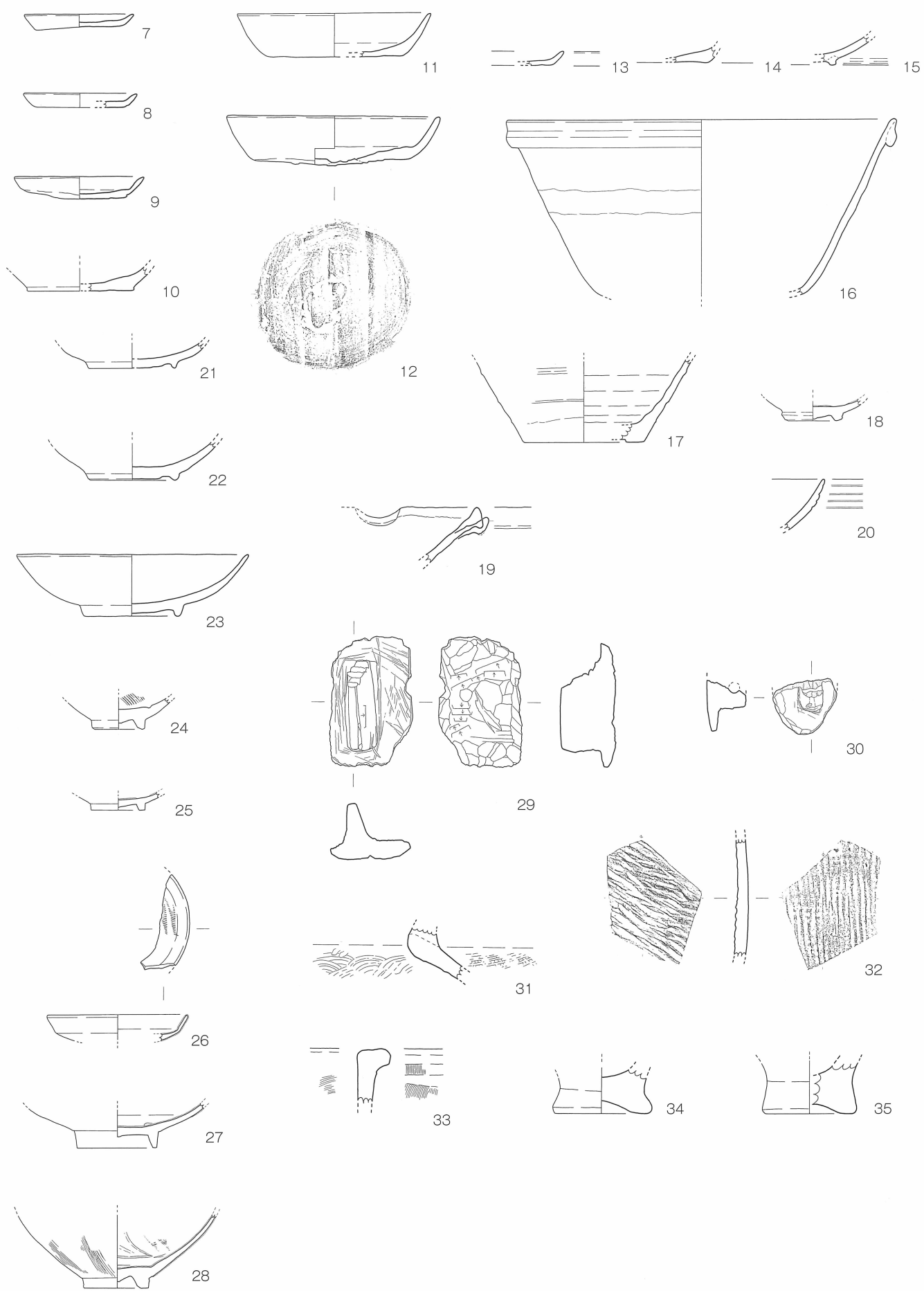
第6図 1号井戸 実測図〔1/60〕



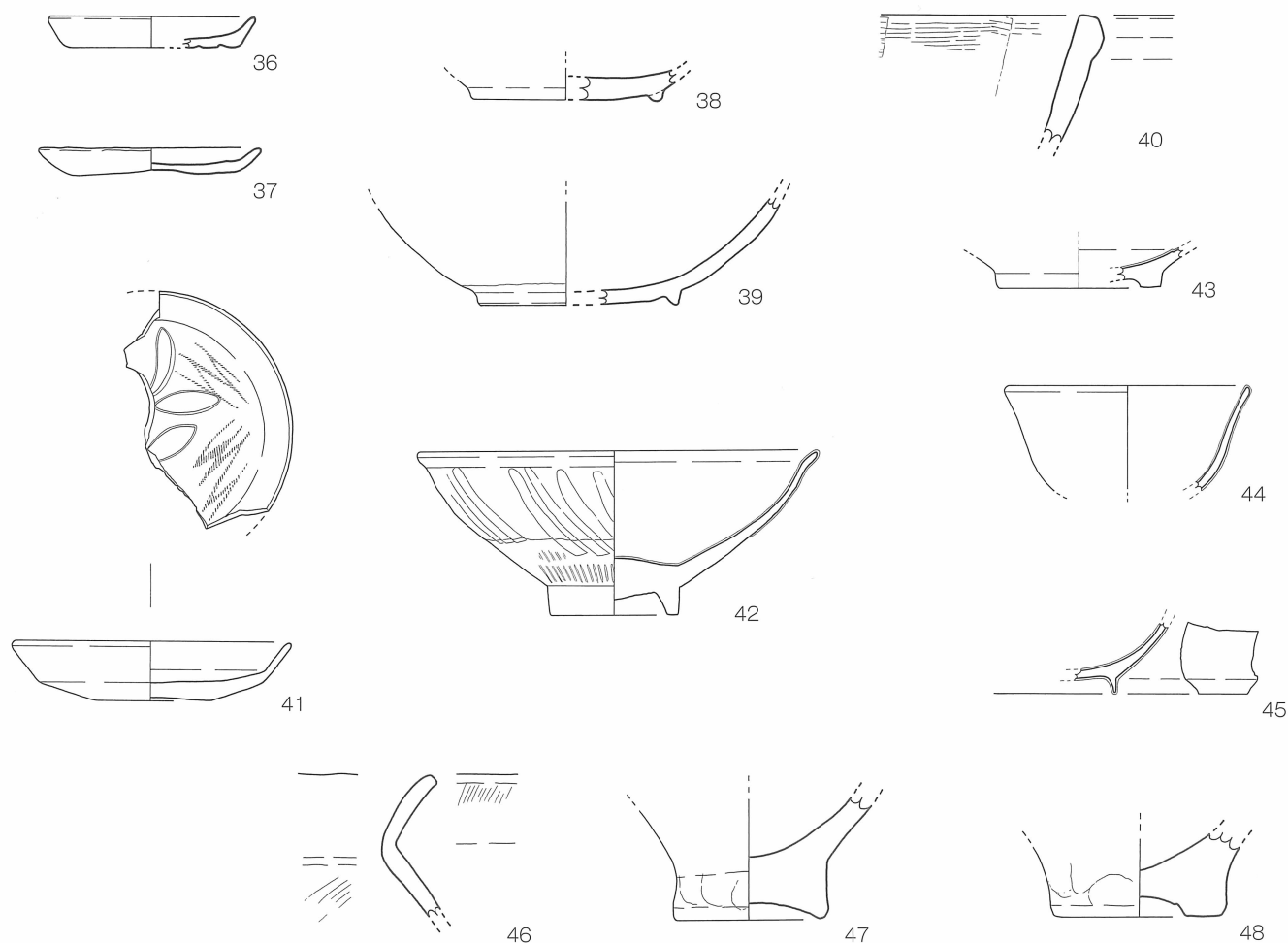
第8図 4号溝状遺構 土層図〔1/60〕



第9図 5号竪穴住居 出土遺物実測図〔1/3〕



第10図 1号井戸 出土遺物実測図〔1／4〕



第 11 図 3・4号溝状遺構 出土遺物実測図〔1／3〕

出土遺物＜第9図・第10図・第11図1＞

1～6は5号竪穴住居出土の弥生土器。6はミニチュア土器。いずれも後期前半～中頃を示す。7～35は1号井戸出土遺物。7～16は土師器で、7，11，12に板目圧痕。12は底部に補修跡あり。19は瓦質土器の播鉢。20～23は瓦器。24～28は青磁片で26に櫛描の雷光文。29，30は滑石製の石鍋片で破断面が整えられ、温石に転用か。30は穿孔されたのち更に割れている。40，43～45は3号溝状遺構、36～39，41，42，46～48は4号溝状遺構出土遺物。36，37は土師器、38，39は瓦器で40は瓦質土器の火鉢。41は陶器で櫛描きの雷光文と花文が施される。42，43は青磁の碗、44，45は染付の碗の破片。46～48は弥生土器。4号溝状遺構は2次調査においても青磁や白磁、土師器や瓦器碗などの出土から12世紀中頃～後半にかけて掘削され、13世紀前半頃に埋没したものと考えられているが、今回の調査でもそれを裏付けるものとなった。

西山ノ上（3次調査）遺物観察表

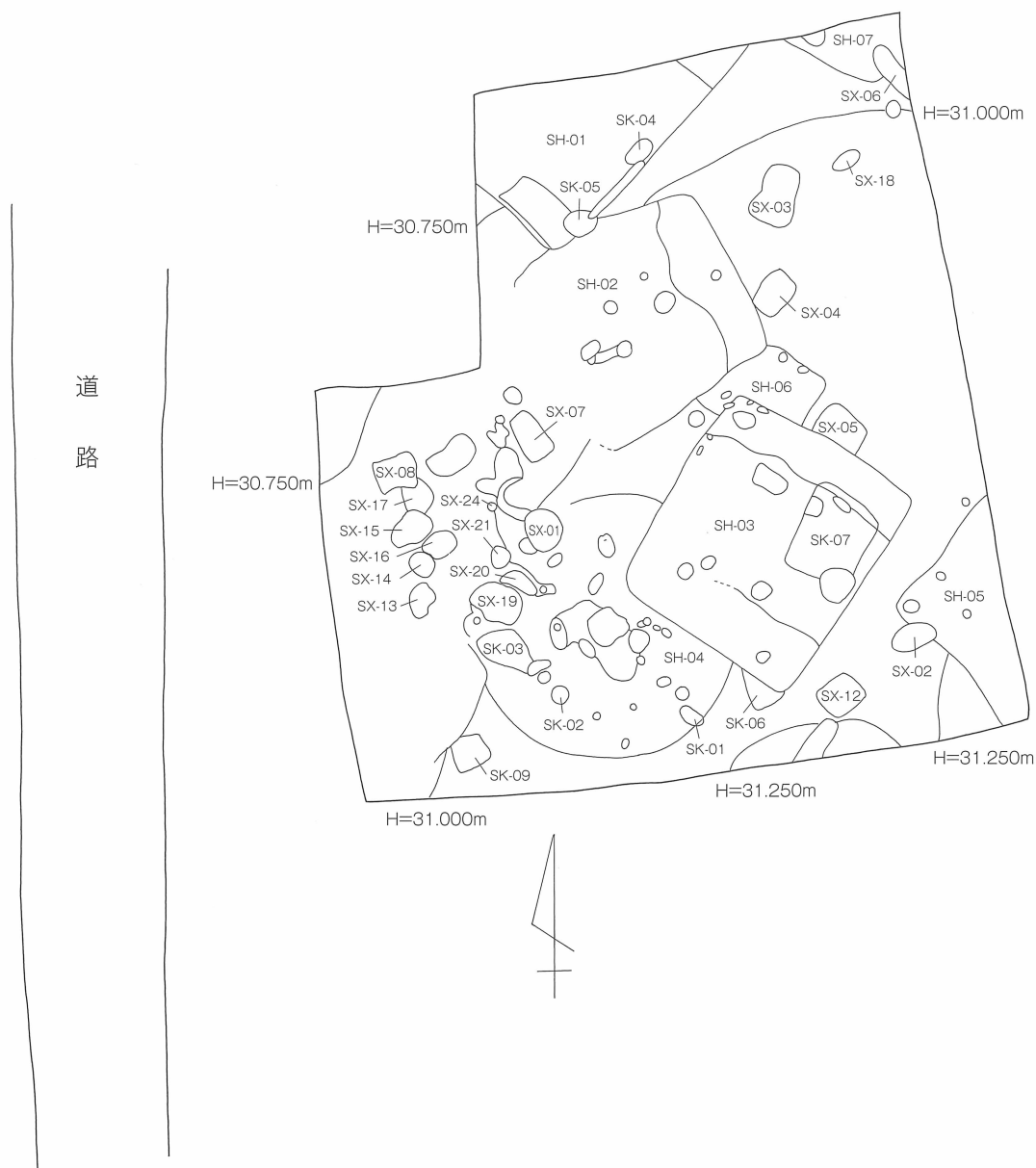
()は復元径

遺物	実測	出土遺	種類	器種	口径(cm)	低径(cm)	器高(cm)	色調/調整/施釉	備考
1	54	SH-5	弥生土器	甕	22.2			内)暗黄茶色 外)淡黄褐色/内)/ハケ 外)/ハケ,ナデ	
2	53	SH-5	弥生土器	甕		8		内)黄茶色 外)暗茶色/内)/ハケ,指押え 外)/ハケ,ナデ	
3	51	SH-5	弥生土器	甕	22.5		16.3	茶褐色/ハケ,ナデ	
4	52	SH-5	弥生土器	甕	16	10	(26.4)	内)茶褐色 外)黒茶褐色/ハケ,ナデ	
5	2	SH-5	弥生土器	甕又は壺		(7)		淡黄茶色/外)/ハケ,ナデ	
6	40	SH-5	ミニチュア土器	鉢	5.4	3		内)茶褐色 外)暗茶色/手づくね	底部に後期弥生土器の特徴有
7	20	SX-1	土師器	皿	8.4	6.5	1	淡茶褐色/内)ナデ 外)ナデ,底部板目圧痕	底部板目圧痕
8	34	SX-1	土師器	皿	8.8	6.6	1.1	淡茶色/ナデ/やや緑色がかった透明釉	糸キリ
9	21	SX-1	土師器	皿	9.9	7.9	1.7	淡茶色/ナデ	糸キリ
10	31	SX-1	土師器			8.2		淡茶色/内)ナデ,ハケ 外)ナデ	糸キリ
11	23	SX-1	土師器	皿	14.3	10.5	3.3	淡黄褐色/内)指圧痕	底部板目圧痕
12	63	SX-1	土師器	皿	16.2	12	3.8	淡黄茶色/ナデ	底部中央に補修跡。板目圧痕。糸キリ
13	39	SX-1	土師器	皿				淡茶色	糸キリ
14	33	SX-1	土師器	不明				淡茶色/内)ナデ	糸キリ
15	28	SX-1	土師器	不明				淡黄褐色/ナデ	
16	24	SX-1	土師器	鉢	29.7			暗茶色/ナデ	黒色のススが外部前面に付着する
17	62	SX-1	陶器	壺か?		(9.3)		内)淡黄茶色 外)暗緑黄色/ナデ/黄色味がかった透明釉	接合できない同一個体片あり
18	30	SX-1	陶器	不明		4.1		淡茶色/外)ナデ/黄色味の強い緑黄色の釉	
19	58	SX-1	瓦質土器	擂鉢				淡黄灰色/ナデ	
20	60	SX-1	瓦器	碗				内)淡黄褐色 外)淡茶色	外面に鉄分が付着
21	32	SX-1	瓦器	不明		6.8		淡茶色	
22	26	SX-1	瓦器	碗		6.5		淡茶色/ナデ	
23	65	SX-1	瓦器	碗	(17.7)	(7.4)	4.6	内)淡灰茶色 外)淡黄茶色	
24	59	SX-1	青磁	碗		4		外)やや白っぽい灰色/外)底部にヘラ状工具による掻きとり/淡い黄緑がかった透明釉	
25	75	SX-1	青磁	不明		4.1		淡灰茶色//やや緑色がかった透明釉	
26	66	SX-1	青磁	皿	(10.8)			やや緑色がかった淡灰色/内)櫛描きの雷光文/やや緑色がかった透明釉	
27	69	SX-1	青磁	碗		6.1		白っぽい灰色//無色に近い透明釉	
28	68	SX-1	青磁	碗		5		やや緑色がかった淡灰色/内)櫛描き/緑色がかった透明釉	
31	61	SX-1	須恵器	壺				灰色/タタキ,ナデ	
32	64	SX-1	須恵器	甕				灰色/タタキ	
33	11	SX-1	弥生土器	甕				内)淡茶色 外)黒茶色//ハケ	
34	4	SX-1	弥生土器	甕又は壺		7.4		淡茶褐色	
35	9	SX-1	弥生土器	甕又は壺		7		茶褐色	
36	35	SD-4	土師器	皿	8.5	6.8	1.2	淡茶色/ナデ	糸キリ
37	22	SD-4	土師器	皿	9.1	6.8	1	白っぽい茶褐色/ナデ	糸キリ
38	36	SD-4	土師器	不明		7.8		内)灰白色 外)灰色	
39	29	SD-4	土師器	不明		8		淡茶色/ナデ	
40	70	SD-3	瓦質土器	火鉢				暗灰茶色/内)/ハケ	
41	56	SD-4	陶器	皿	(11.4)	(4.7)	2.4	淡黄褐色/内)櫛描きの雷光文と花文/黄色味がかった透明釉	
42	57	SD-4	青磁	碗	(16.4)	5.2	6.7	外)やや淡い灰色/外)3本1組の工具による調整/緑色がかった透明釉	
43	73	SD-3	青磁	碗		(6.6)		淡灰色//やや白っぽい透明釉	
44	71	SD-3	染付	碗	(10)			やや青みがかった白色	
45	72	SD-3	染付	碗				やや青みがかった白色//やや青みがかった透明釉	
46	14	SD-4	弥生土器	甕				淡黄茶色//ハケ	
47	5	SD-4	弥生土器	甕又は壺				淡黄茶色/外)指圧痕	
48	6	SD-4	弥生土器	甕又は壺		6.9		淡茶色/外)指圧痕	

西山ノ上（3次調査）遺物観察表

遺物	実測	出土遺	種類	器種	材質	色調	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(cm)	備考
29	55	SX-1	石製品	石鍋	滑石	灰色	9.8	6.2	4.2	220.0	転用の可能性(温石か)
30	67	SX-1	石製品	石鍋	滑石	灰色	4.8	4.0	3.0	39.4	穿孔して転用後に割れ。中央の穿孔部分内側鉄分の付着有

〔 4 次調査〕



第12図 西山ノ上遺跡（4次調査） 遺構配置図〔1／200〕

C 4次調査

概要

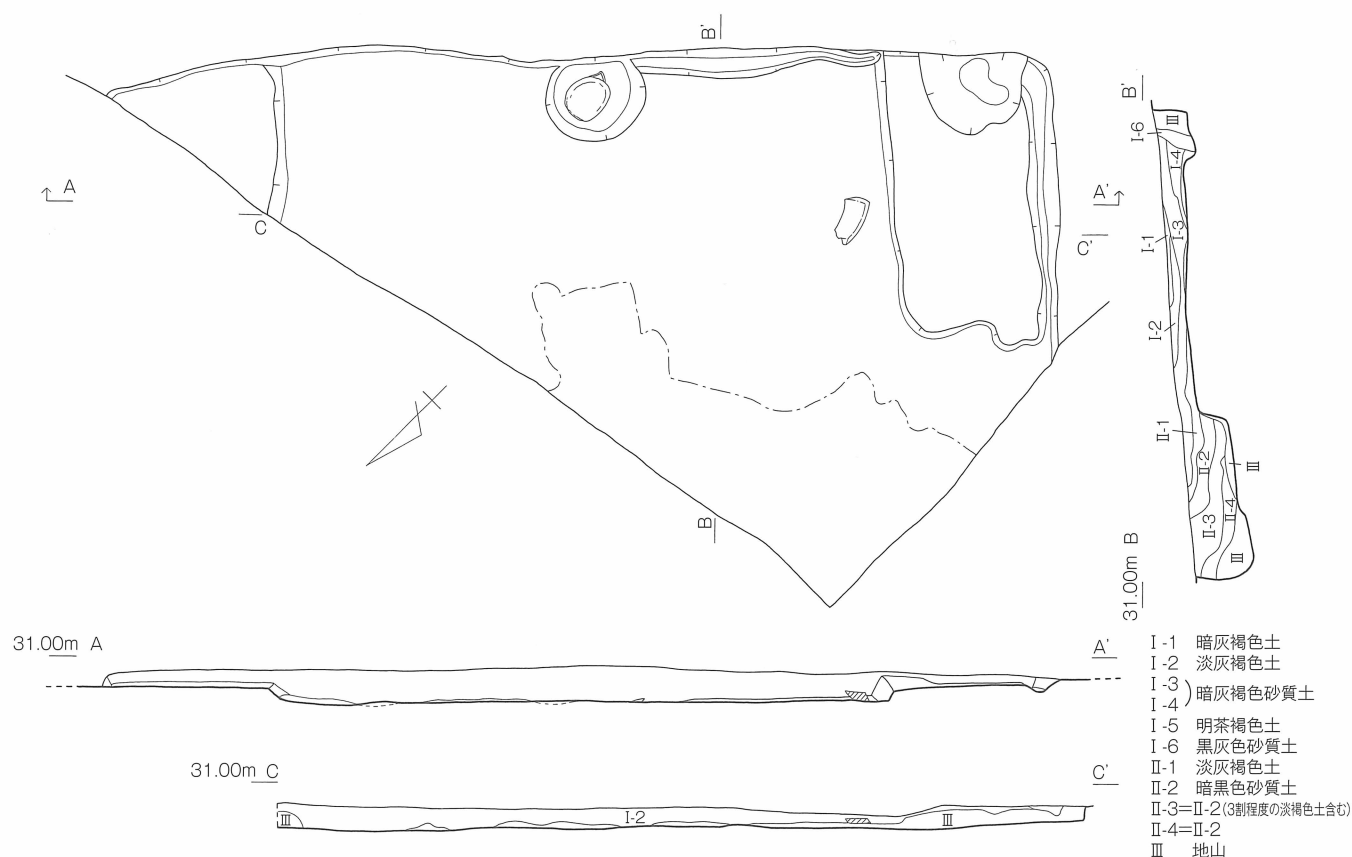
4次調査は弥生時代の遺構が検出された。検出された遺構は竪穴住居、土壇、落とし穴である。

1) 遺構と出土遺物

(1) 竪穴住居（建物）

1号竪穴住居（SH-01）＜第13図＞

調査区の北側で検出された竪穴住居である。2号竪穴住居を切る。方形で規模は $7.6\text{m} + \alpha \times 3.2\text{m} + \alpha$ 、深さ最大 0.3m を測る。北側調査区外端が攪乱を受けている。主柱穴は確認できなかった。南西壁南寄りと北東壁側にベッド状遺構が確認できる。南東壁中央に円形の屋内土壇を付設し、径 36cm 、厚さ 12cm の石が据えられていた。出土遺物として、南側床面から大型の砥石と鉄片が出土した。出土遺物として壺、複合口縁の壺の口縁部、長頸壺など。



第13図 1号竖穴住居 実測図〔1/60〕

2号竖穴住居 (SH-02) <第14図>

調査区中央北寄りで検出された竖穴住居である。6号竖穴建物を切り、1号竖穴住居に切られる。方形で規模は4～5.7m×5.6m+α。深さ最大0.27m、西南西側壁は浅く確認できなかった。中央西寄りにある2つのピットを支柱穴と考えると住居の規模はもっと西南西側に広がる可能性がある。その二つのピットを結んだ延長線が南南東壁に当たるあたりに屋内土壌がある。屋内土壌には壁に向かって両脇に小ピットが付設される。中央やや東よりには炉が設けられる。出土遺物としては甕、鉢型土器、器台、縄文土器片、ミニチュア土器片、鉄片などがある。この遺跡の大部分の鉄製品はこの2号竖穴住居から出土している。

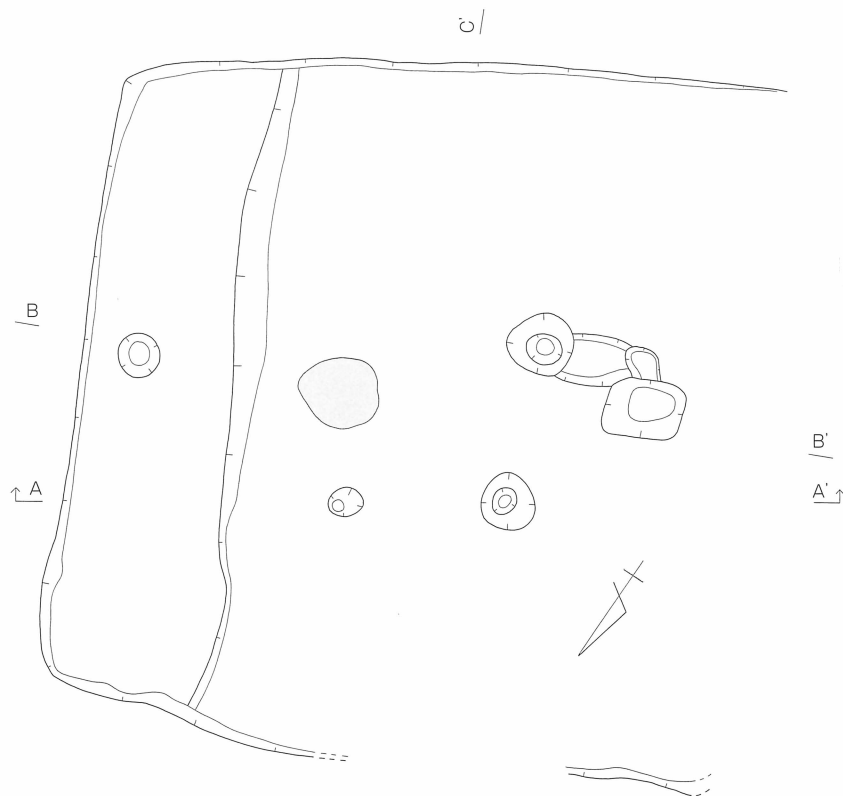
3号竖穴住居 (SH-03) <第15図>

調査区中央南東寄りで検出された竖穴住居である。4号竖穴住居 (SH-04)・6号竖穴建物 (SH-06) を切り、7号土壌 (SK-07) の上に建てられている。方形で規模は6.4m×5.7m、深さ0.3mを測る。支柱穴は4つで方形の掘り方が確認できた。当初は7号土壌を屋内土壌と捉えていたが、南東壁中央にある屋内土壌と支柱穴の掘り方が7号土壌を切っていること、貼床 (II-1層) の下部に7号土壌があることが断面で明確に確認できることから別の遺構である。屋内土壌には大型の砥石が据えられる。出土遺物として壺、甕、高坏、器台がある。

4号竪穴住居 (SH-04)

<第16図>

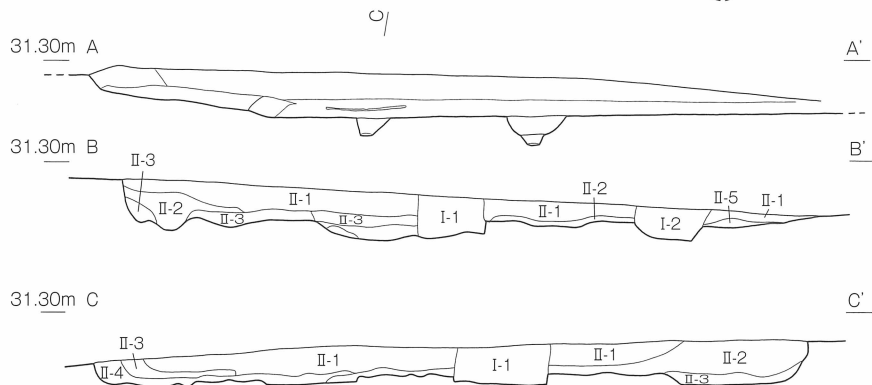
調査区南西側で検出された竪穴住居で、3号竪穴住居に切られる。円形で最大径7.2m、深さ0.22mを測る。柱穴は少なくとも5本確認できた。中央の土壌は竪穴住居に伴うものではない可能性がある。出土遺物は壺、甕、縄文土器片などがある。



5号竪穴建物 (SH-05)

<第17図>

調査区南東側で検出した竪穴建物で規模は現況で方形と考えると4.5m+α×3.7m+α。深さ0.3mを測る。北西壁にベッド状遺構を付設する。主柱穴は確認できなかった。出土遺物として甕、高坏、土師器片などがある。



6号竪穴建物 (SH-06)

<第18図>

調査区中央東側で検出された竪穴建物で、2号竪穴住居 (SH-2)、3号竪穴住居 (SH-3) に切られる。長形状で

- I-1 暗灰色土(住居とは別遺構)
- II-1 淡灰褐色土
- II-2 暗灰褐色土
- II-3 暗灰褐色土(3~5割程度の明褐色土を含む)
- II-4 暗灰褐色土

第14図 2号竪穴住居 実測図〔1/60〕

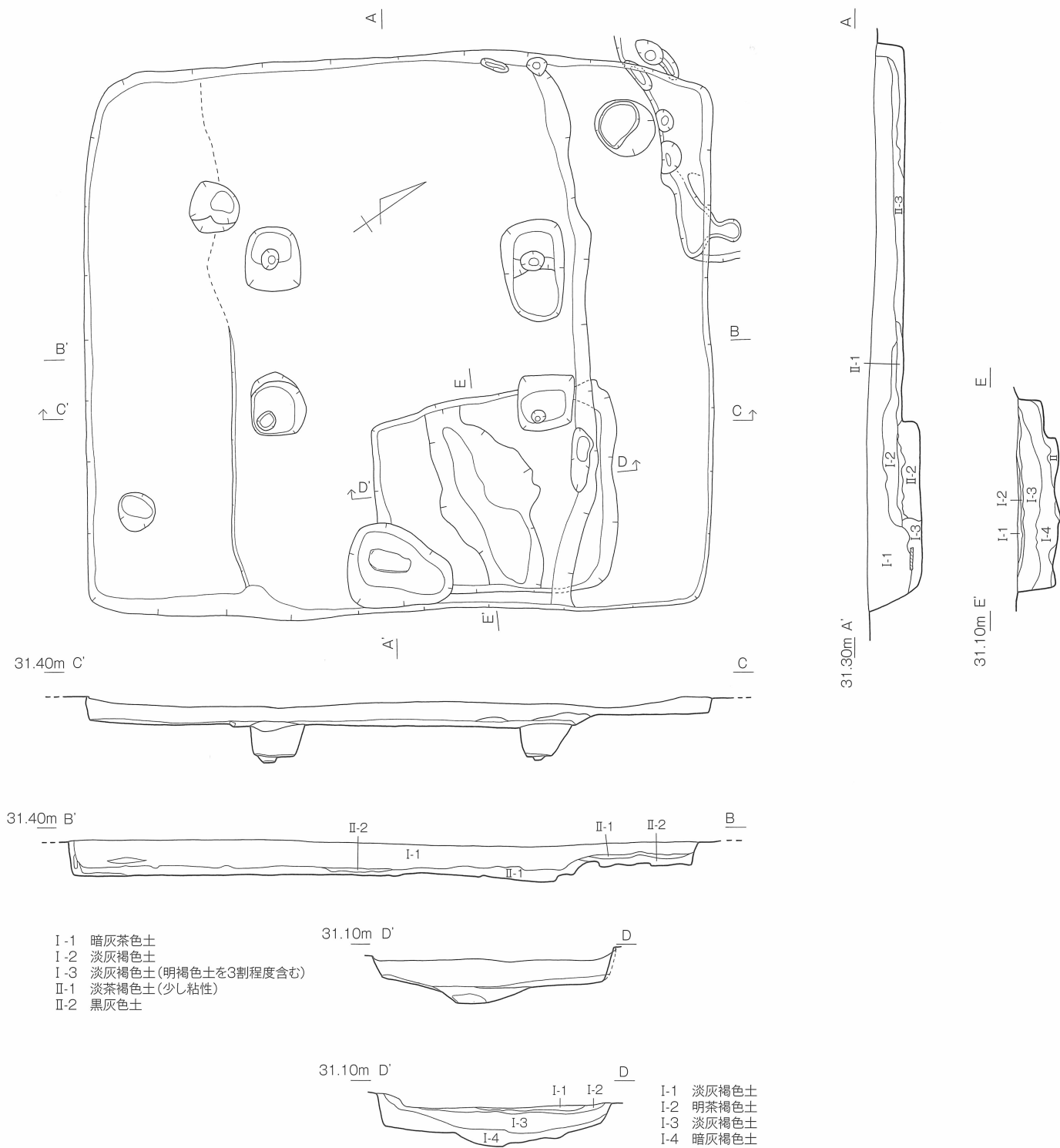
2.0m×2.95m+α、深さ0.35mを測る。北東・南西の壁に沿って並ぶピットを柱穴と考えてよいか疑問である。出土遺物として弥生土器の甕、高坏の脚部、器台、縄文土器片がある。

(2) 土壌、不明遺構

3号竪穴住居の床下から方形の土壌が見つかったほか、おそらく落とし穴と思われる遺構が見つかった。

7号土壌 (SK-07) <第15図>

3号竪穴住居 (SH-03) の下部で検出された土壌である。長方形で2.5m×2.2m、深さは3号竪穴住居貼床面から0.24mを測る。柱穴と思えるものはなく、南北両側の床が高くなっているがベッド状遺構のように整っているわけではない。



第15図 3号竪穴住居・7号土壌 実測図〔1/60〕

8号不明遺構 (SX-08) <第20図>

9号不明遺構 (SX-09) <第21図>

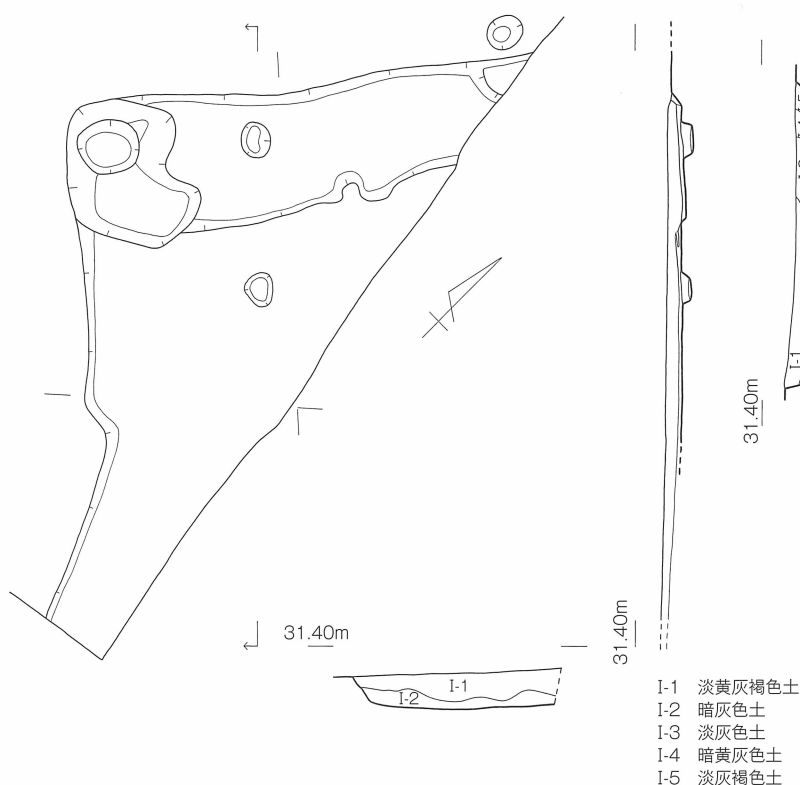
調査区西側の8号、9号の不明遺構の間に並ぶ不整形のピットは植生の跡であろうか。これより南西側は遺構の密度も低く、遺物もほとんど出土しなかった。いずれも長辺が少しくびれたような方形の遺構で、落とし穴と考えられる。規模は8号が1.3m×1.0m、9号が1.0m×0.8m、遺物は出土していない。



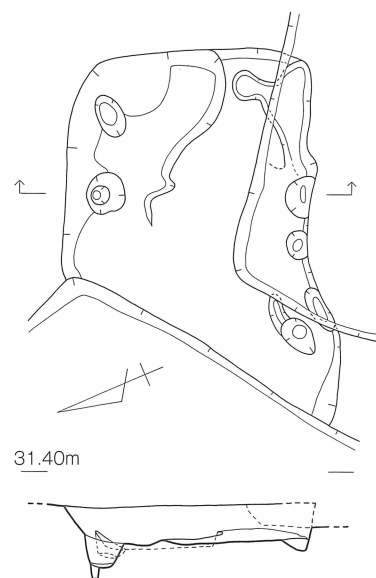
第16図 4号竪穴住居 実測図〔1/60〕

出土遺物<第21図～第32図>

49～55は1号竪穴住居出土土器。49, 50は甕、51, 52は壺で同一個体の可能性あり。突帯に刻み目あり。後期前半を示す。53は長頸壺で重弧文なし。56～76は2号竪穴住居出土土器。56～59は甕、65, 66は床面で出土した中期の甕。71, 72は鉢、73, 74は器台か。75はミニチュア土器で南南東壁の屋内土壌から出土し、出土した時から粘土塊が強く吸着していた。外して接点を確認したところミニチュア土器の内面の形が粘土側に強く残っており、粘土を充填した可能性が考えられる。77～98は3号竪穴住居出土土器。78～80は壺で80は赤色顔料が塗布される。81は

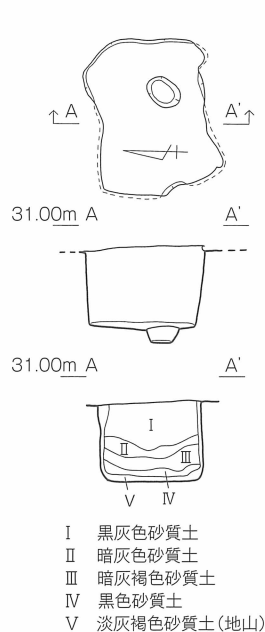


第17図 5号竖穴建物 実測図〔1/60〕

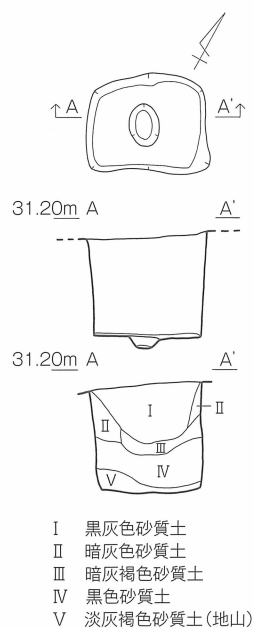


第18図
6号竖穴建物 実測図
〔1/60〕

無頸壺、82～90は甕。91, 92は高坏片、93, 95は鉢、96は器台、97, 98の器種は不明だが赤色顔料が塗布される。99～115は4号竖穴住居出土土器で99～101は壺、102～112は壺か甕。113は器台か。いずれも埋土の上層で出土しており、床面付近の遺物が乏しい。118, 122, 124, 125, 127は5号竖穴建物出土土器で118は壺か甕の底部、122は高坏片で弥生後期前半を示す。124は甕、125は鉢。116, 117, 119～121, 123, 126, 128, 129は6号竖穴建物出土土器で116, 117, 119～121は甕、123は高坏の脚部、126は器台、128, 129は縄文土器。130～139は7号土壇出土土器で130～138は壺か甕で弥生中期前半を示す。139は鉢か。150～164は出土石製品。150, 151は1号竖穴住居から

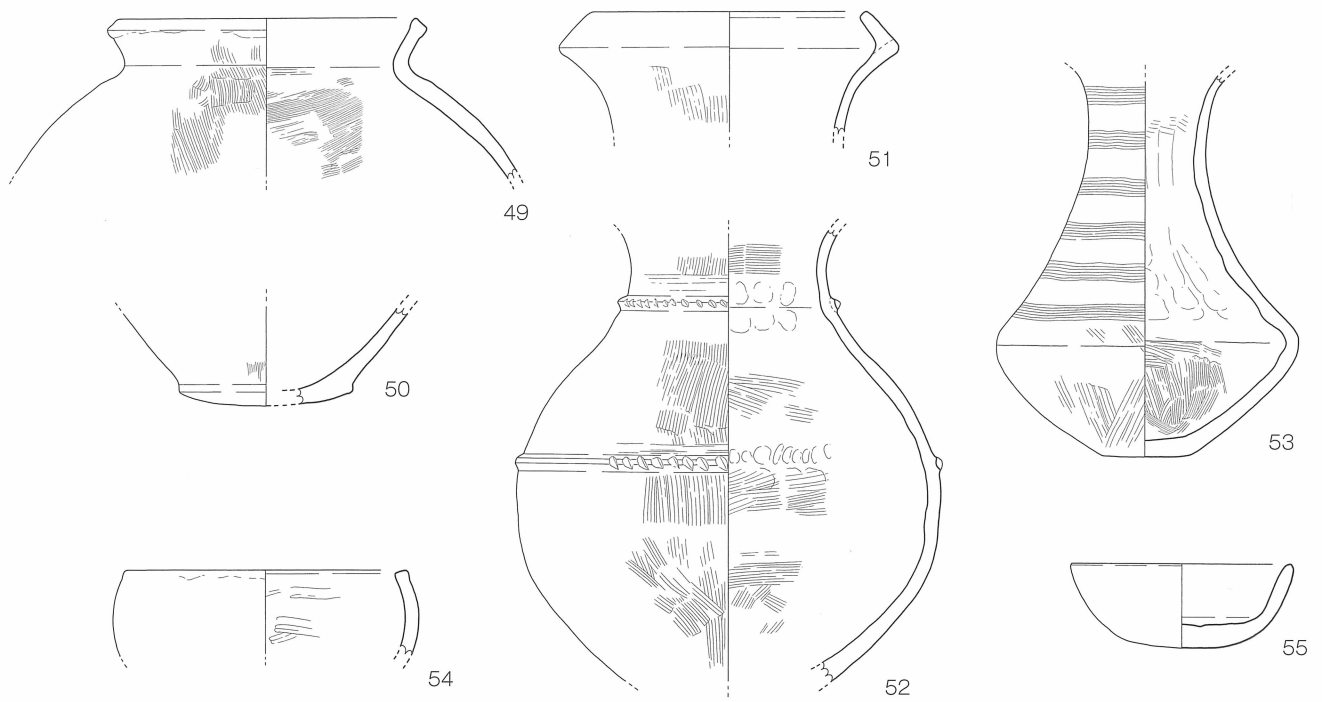


第19図
8号不明遺構 実測図
〔1/60〕



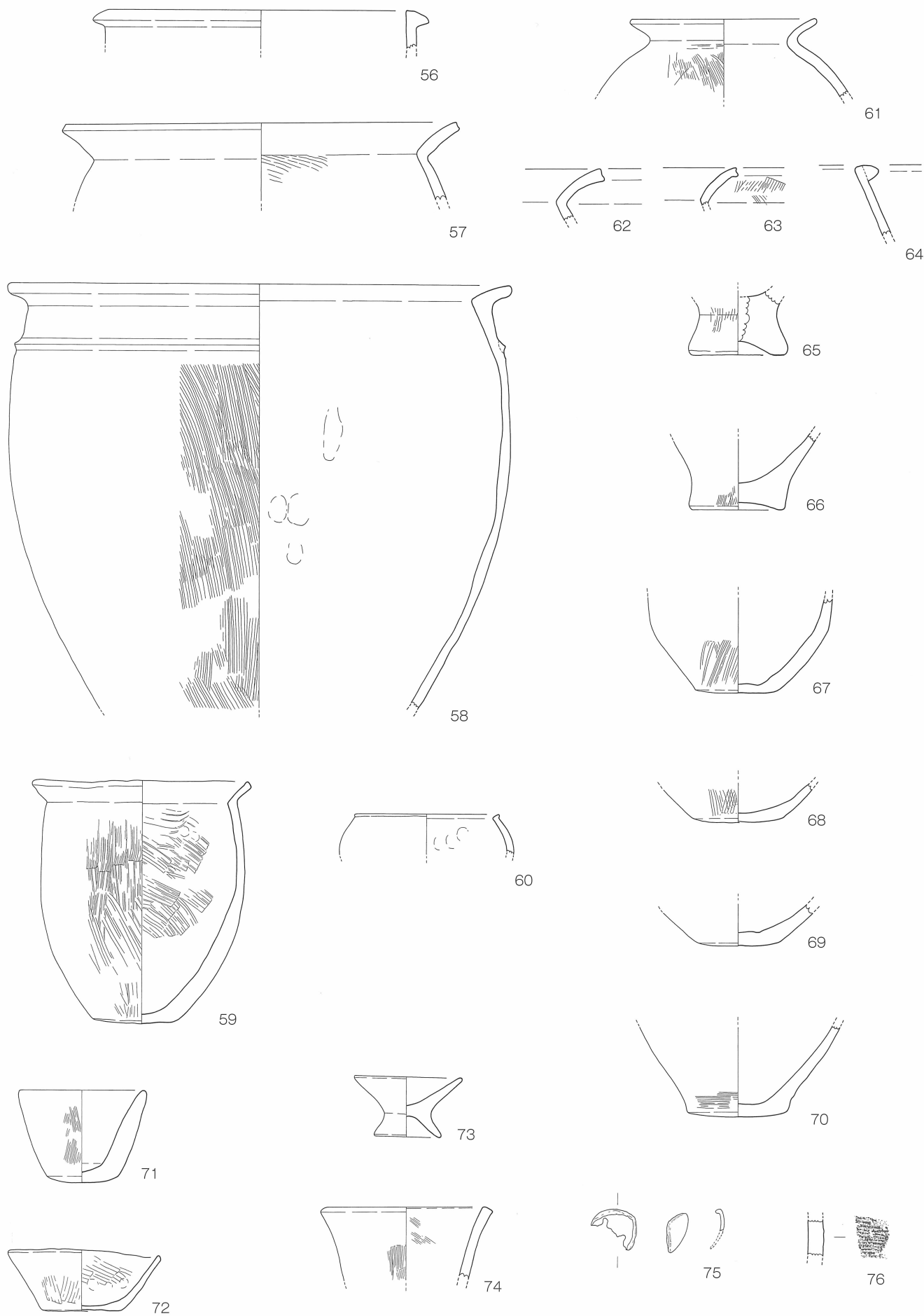
第20図
9号不明遺構 実測図
〔1/60〕

ら出土した石庖丁で片岩製。152は2号竖穴住居から出土した石庖丁で複数の穿孔跡がみられる。153, 156は4号竖穴住居から出土し、153は石庖丁で砂岩製。156は砥石片で砂岩製。155は2号竖穴住居で出土した砥石片。154は23号不明遺構から出土した柱状片刃石斧片で粘板岩製。157～162は石鏃で157はサヌカイト製で他は黒曜石。164は石匙。165～170は出土鉄器

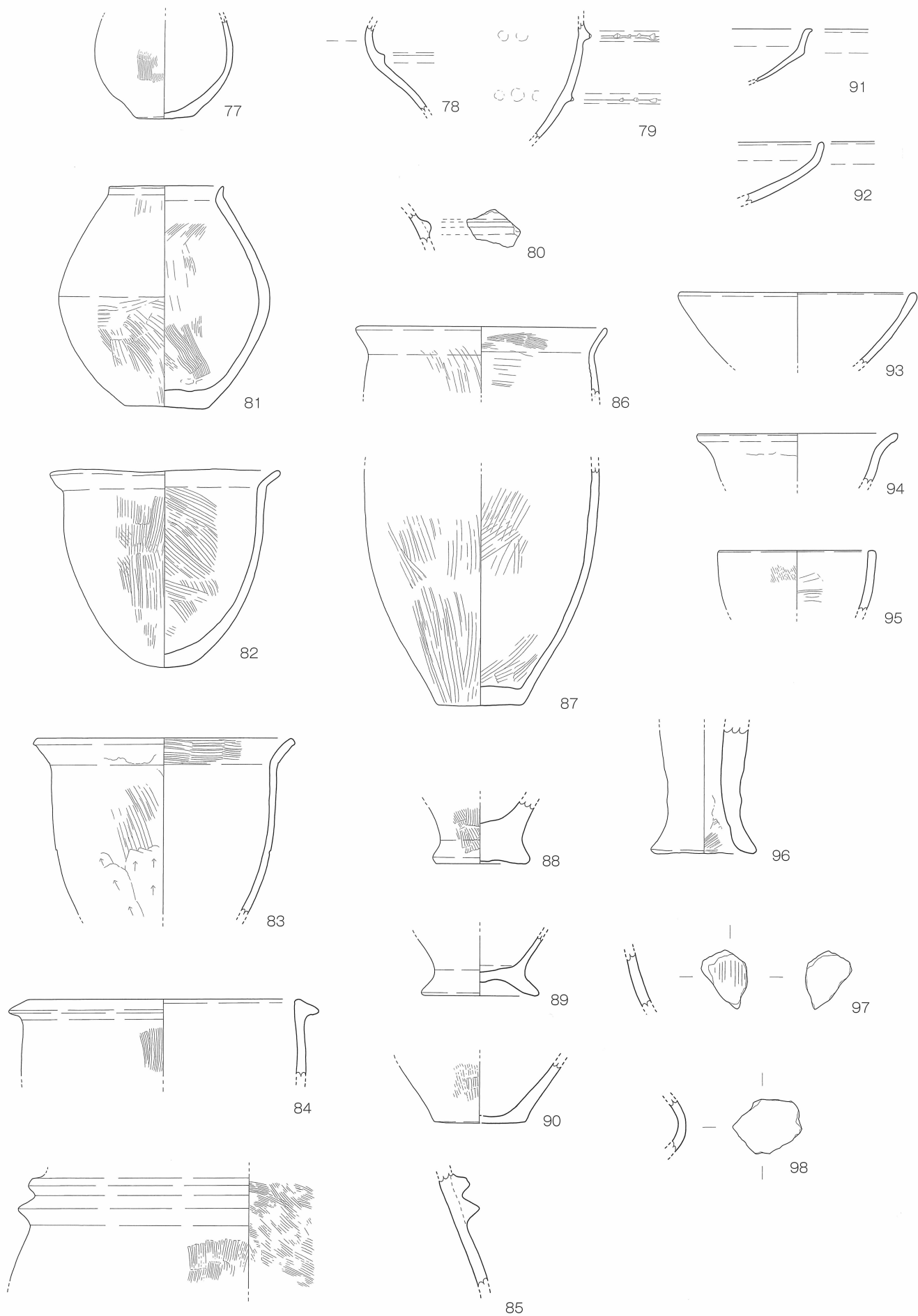


第21図 1号竪穴住居 出土遺物実測図〔1／4〕

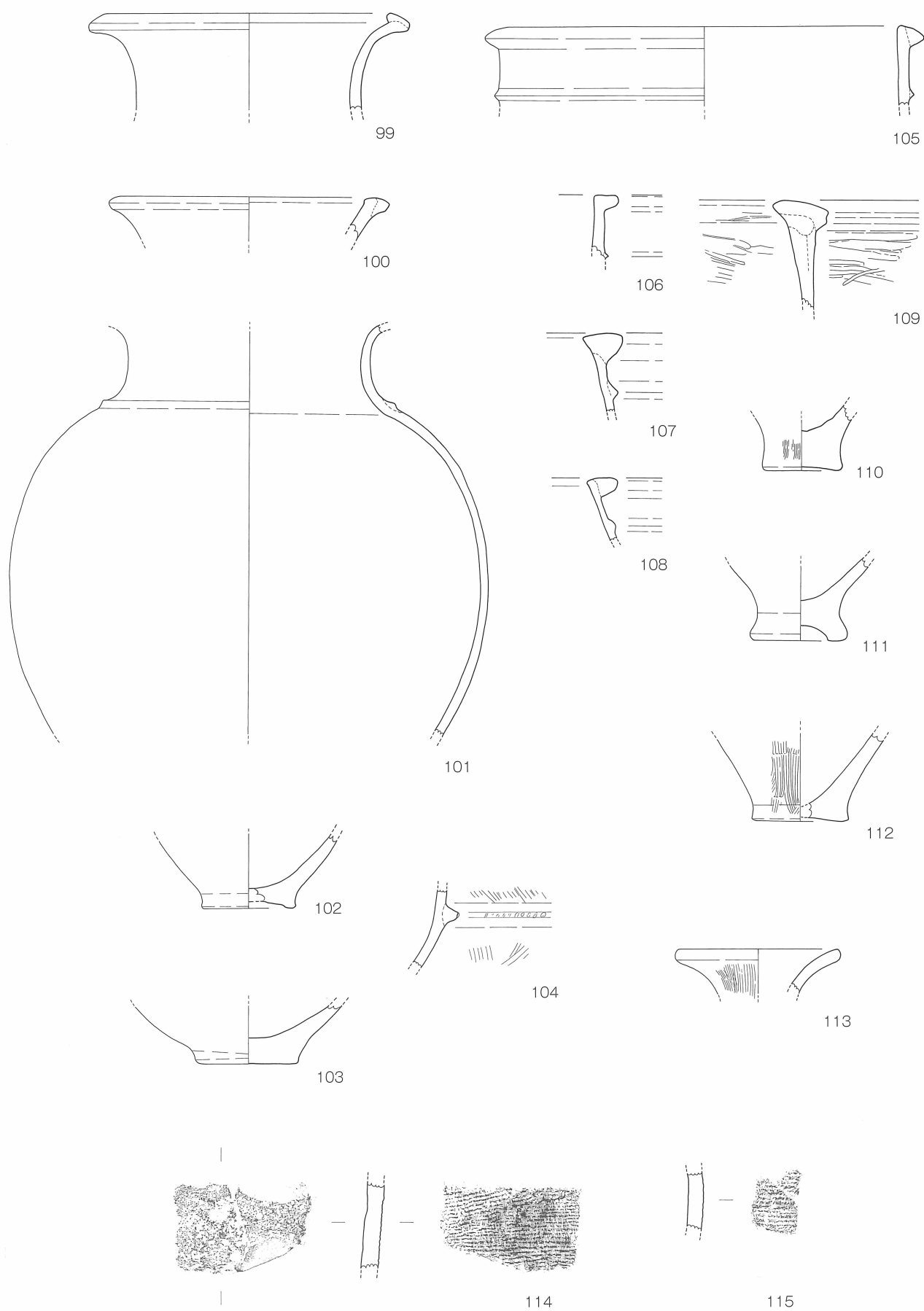
で165, 168, 169, 170は2号竪穴住居から出土し、165は鍛造鉄斧片、167, 168は鉄斧刃部、169, 170は棒状鉄片で断面は方形。166は7号不明遺構内で出土、鉄斧刃部か。171と172は竪穴住居（建物）内で出土した大型の砥石。いずれも片岩製で171は1号竪穴住居の床面で出土。172は3号竪穴住居の南東側屋内土壌内で出土した。



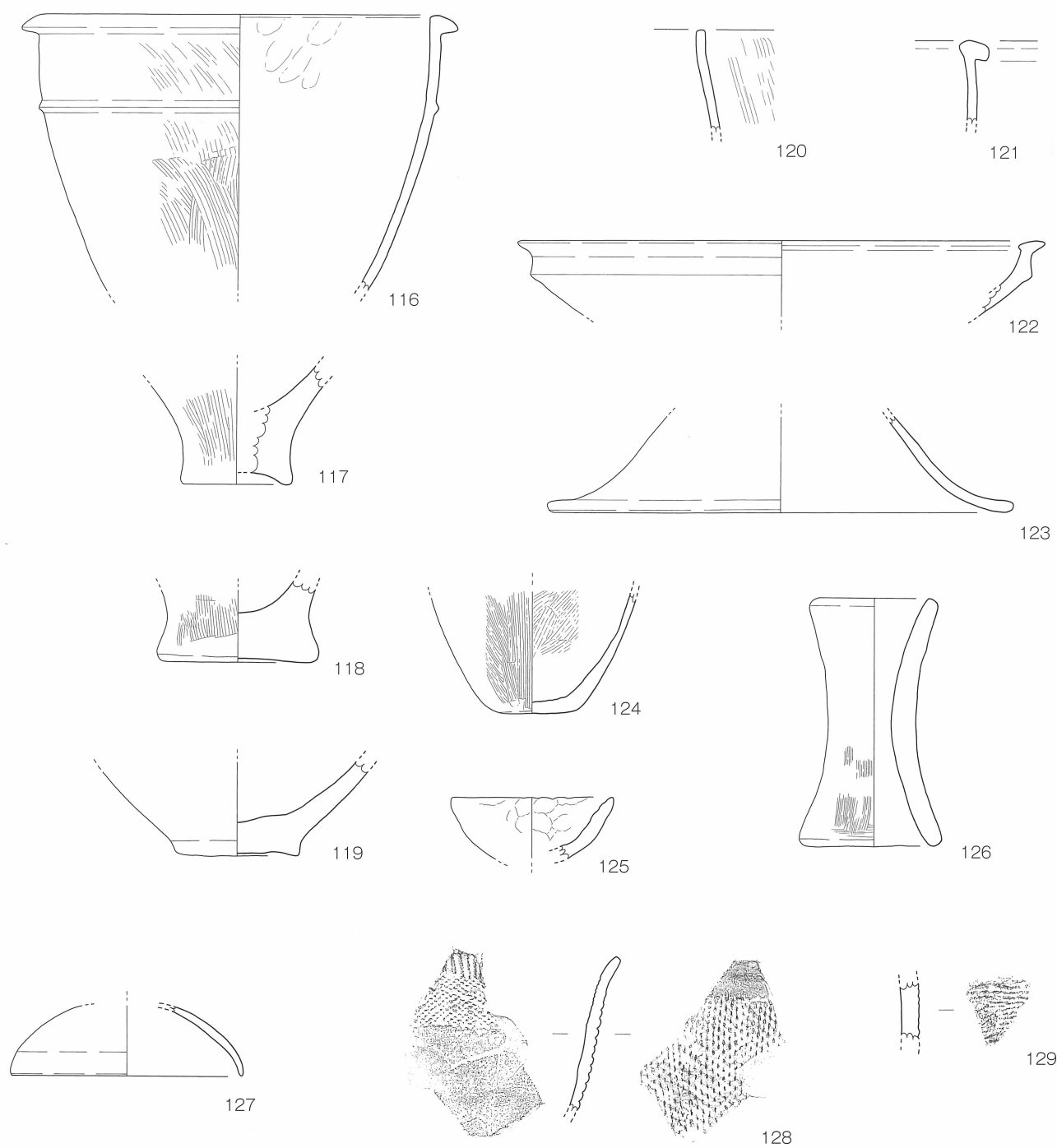
第22图 2号竖穴住居 出土遺物実測図〔1／4〕



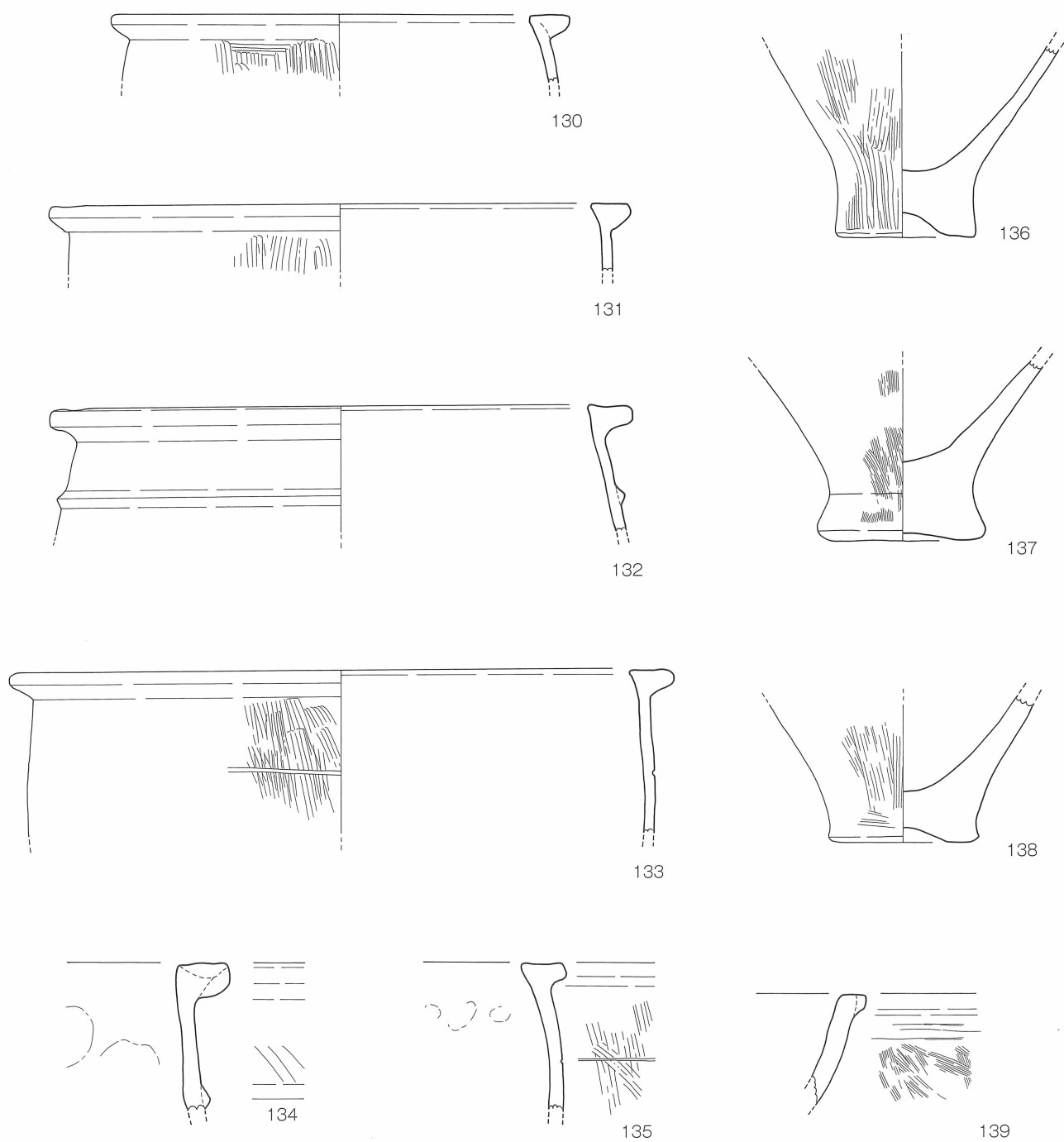
第23図 3号竖穴住居 出土遺物実測図〔1／4〕



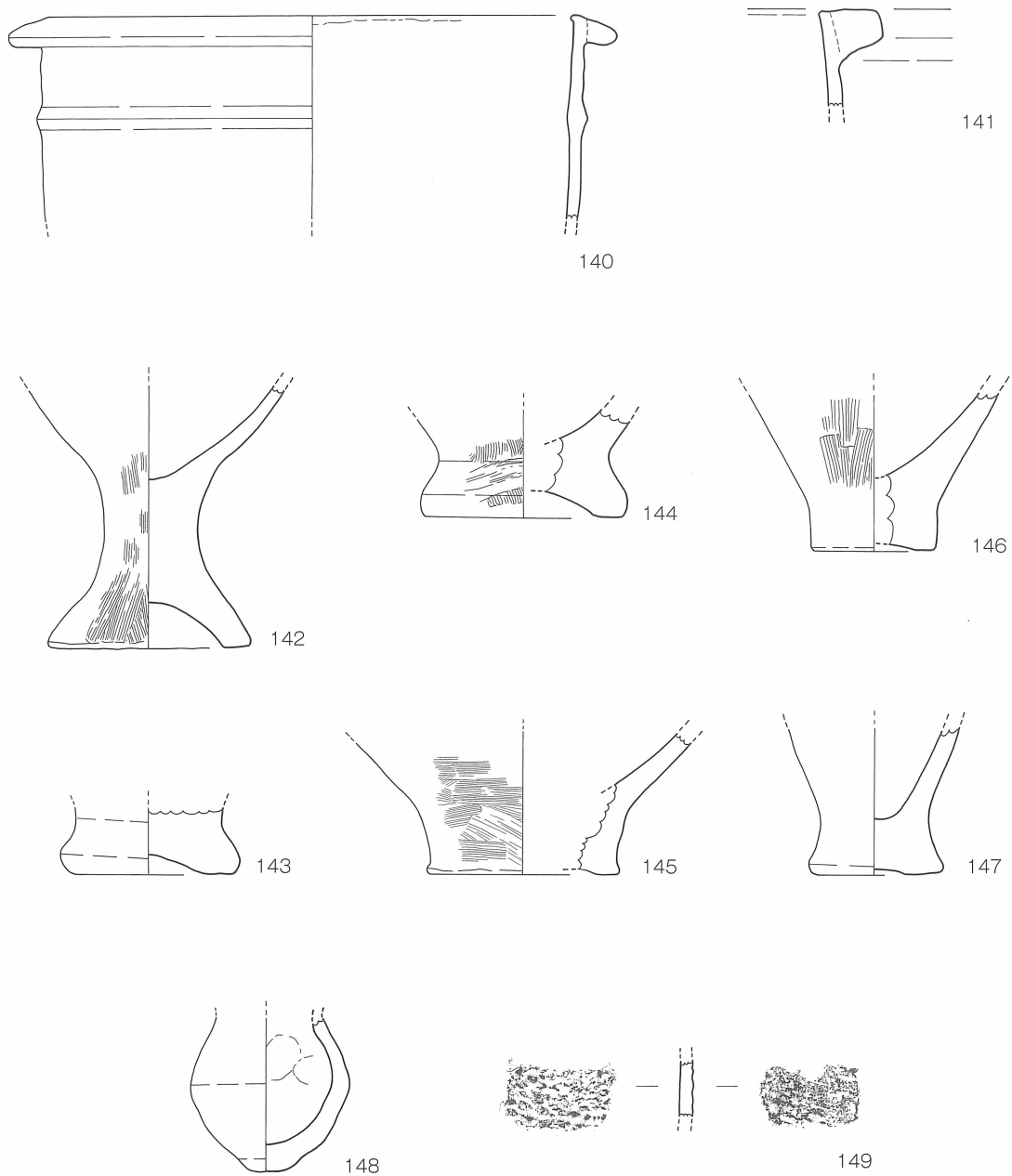
第24図 4号竪穴住居 出土遺物実測図〔1／4〕



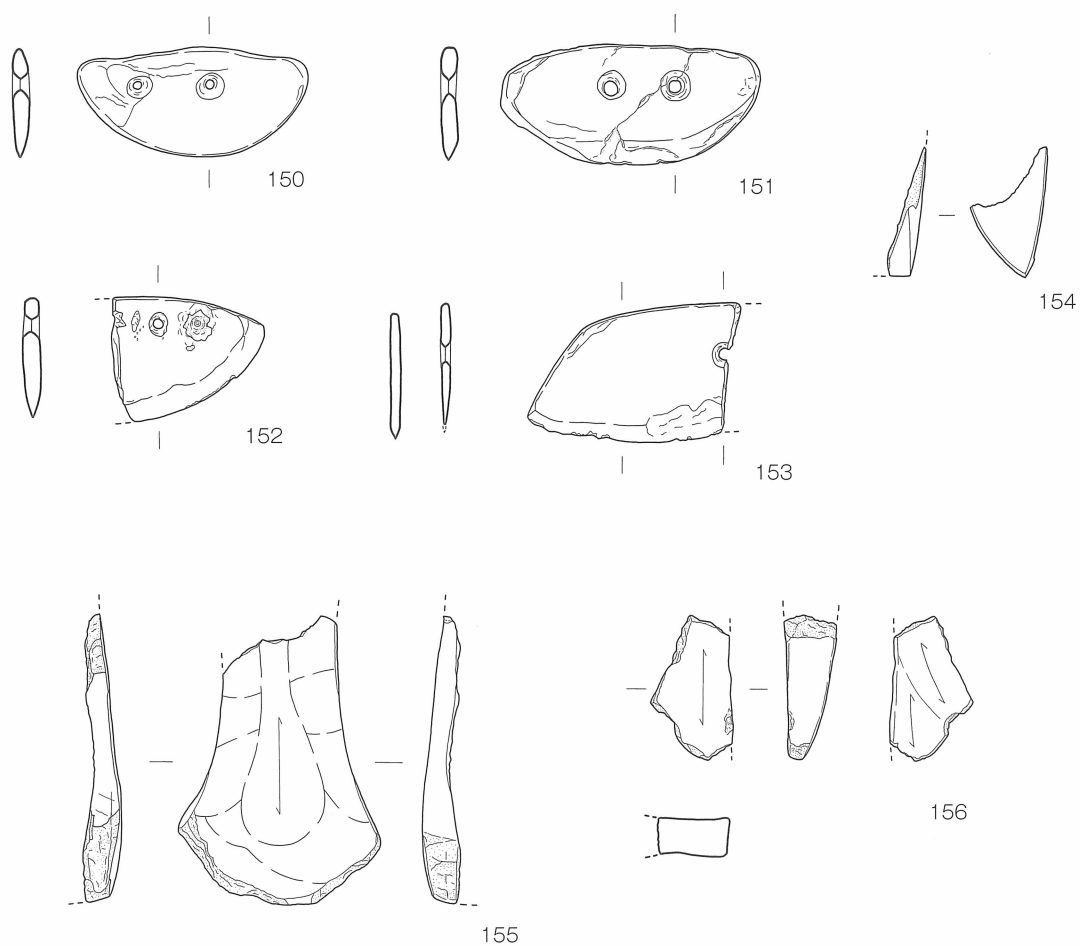
第25図 5・6号竪穴住居 出土遺物実測図〔1／4〕



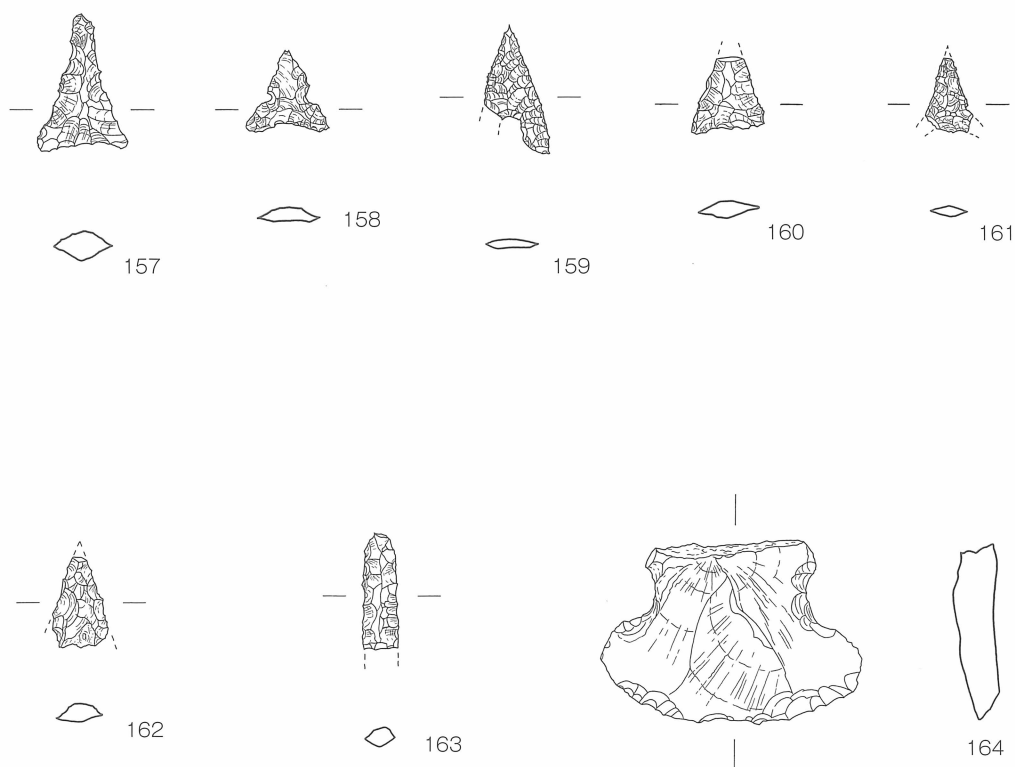
第26图 7号土壤 出土遺物実測図〔1／3〕



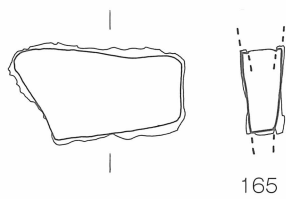
第27図 7号竪穴住居，3～5・8・11～14号不明遺構 出土遺物実測図〔1／3〕



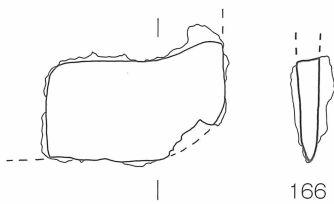
第28図 1・2・4号竪穴住居，23号不明遺構 出土石製品実測図〔1／3〕



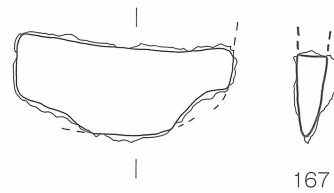
第29図 1～4号竪穴住居，1号不明遺構 出土石製品実測図〔1／2〕



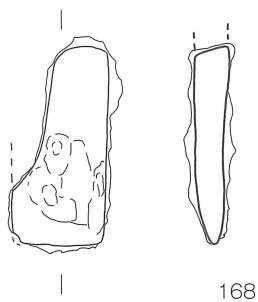
165



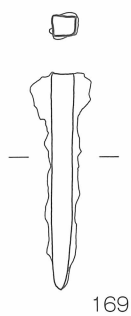
166



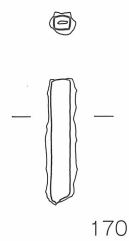
167



168

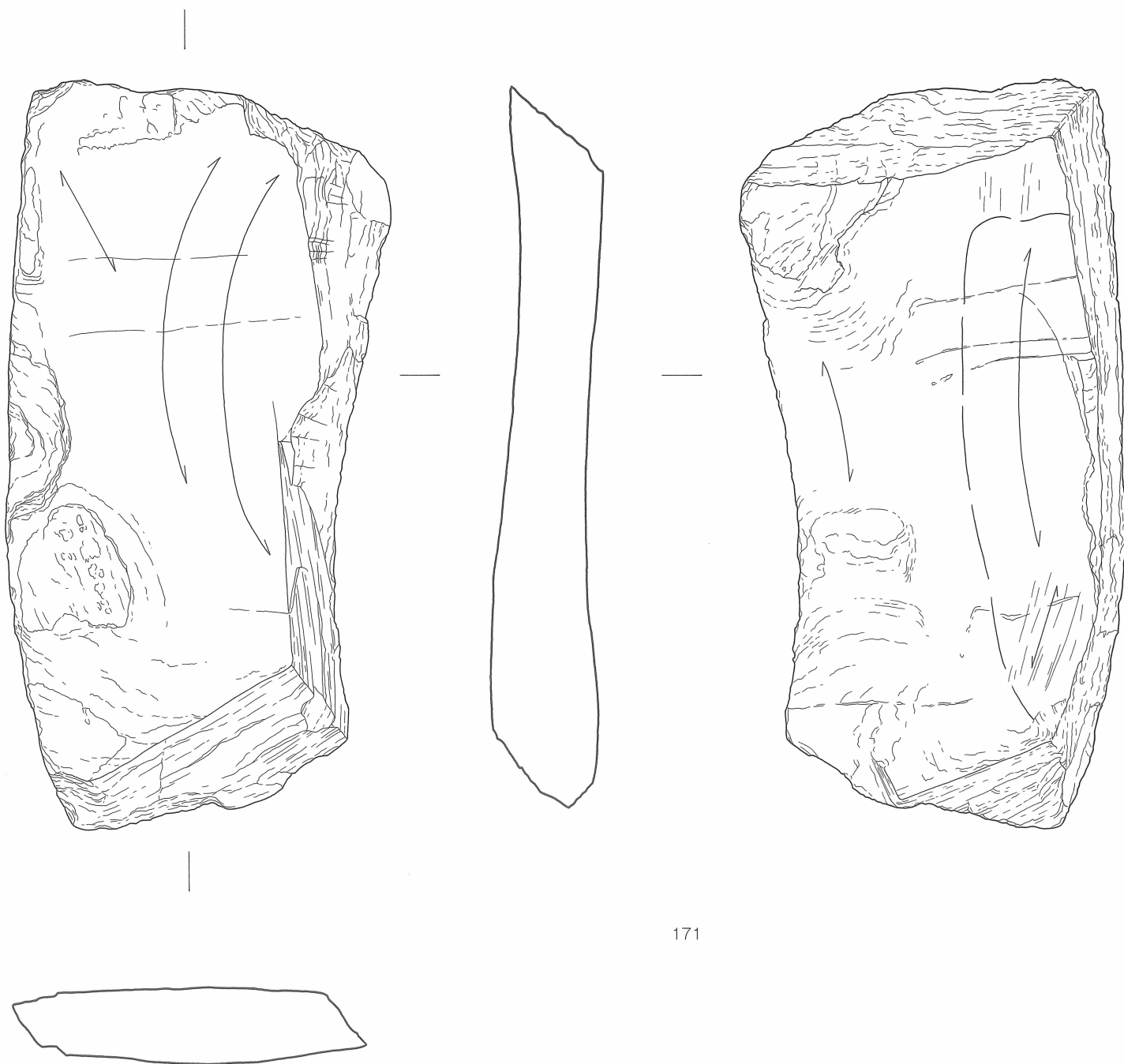


169



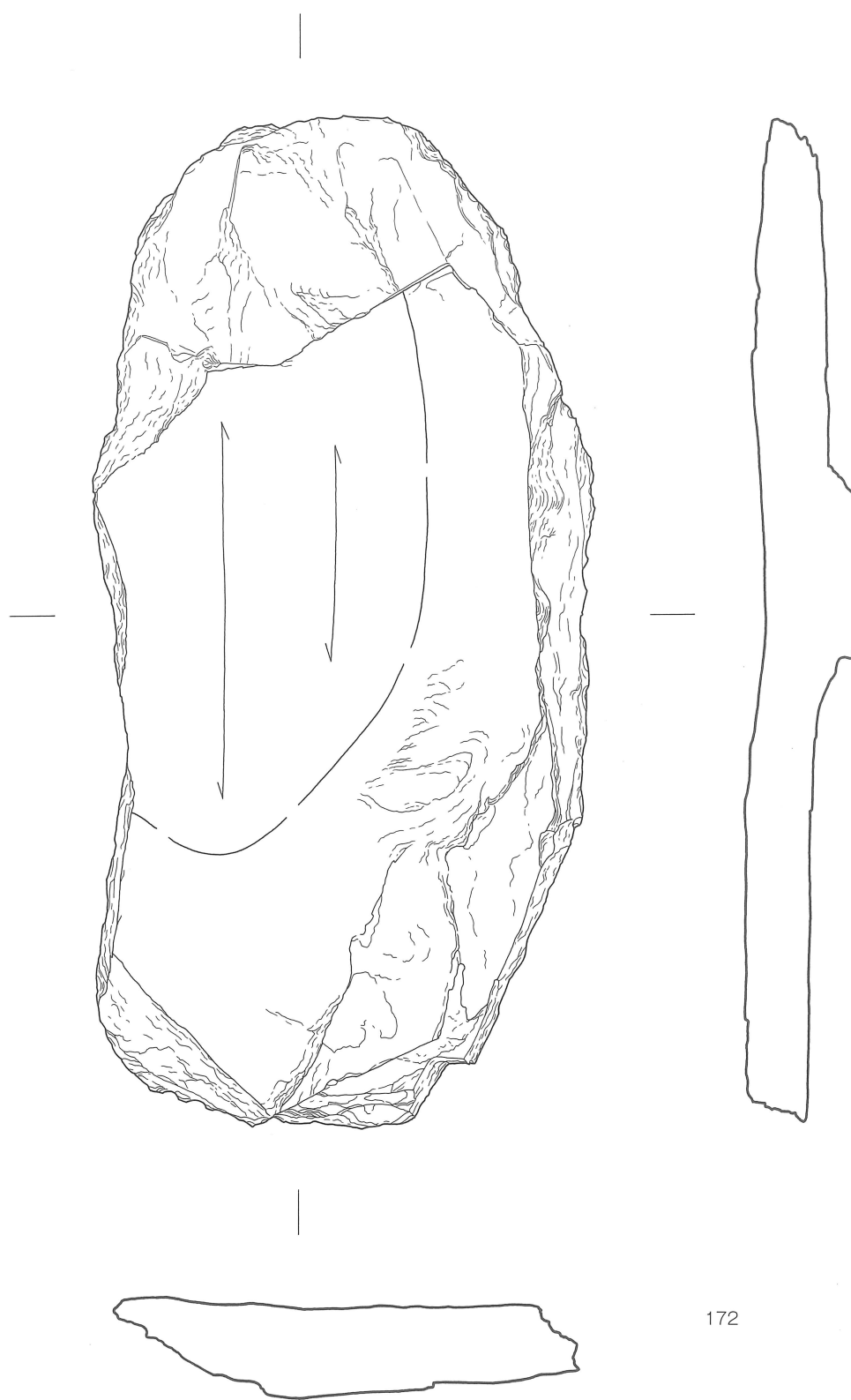
170

第30図 1・2号竪穴住居・7号不明遺構 出土鉄器実測図〔1／2〕



171

第31図 1号竖穴住居 出土石製品実測図〔1／3〕



第32図 3号竪穴住居屋内土壙 出土石製品実測図〔1／3〕

遺物	実測	出土遺	種類	器種	口径	低径	器高	色調/調整	備考
49	92	SH-1	弥生土器	甕又は壺				内)茶褐色 外)黄茶褐色/ハケ,ナデ	
50	45	SH-1	弥生土器	甕又は壺			9.1	白っぽい黄茶褐色/外)ハケ?	
51	68	SH-1	弥生土器	複合口縁壺	(14.4)			褐色/外)ハケ	
52	100	SH-1	弥生土器	壺				茶褐色/内)ナデ,ハケ 外)ハケ,ナデ,突帯に刻目	胴部最大径22.5cm
53	151	SH-1	弥生土器	長頸壺			4.6	やや淡い茶褐色/内)ハケ,ナデ 外)ハケ	胴部最大径15.3cm,重弧文なし
54	69	SH-1	弥生土器	鉢	(14.8)			茶褐色/内)ナデ 外)ハケ	
55	8	SH-1	弥生土器	鉢		11.8		黄茶褐色/ナデ	
56	63	SH-2	弥生土器	甕	(22.5)			茶褐色	
57	19	SH-2	弥生土器	甕又は壺	29.3	6.9		淡茶色	
58	155	SH-2	弥生土器	甕	(38)			やや淡い茶褐色/内)指圧痕 外)ハケ,ナデ	
59	56	SH-2	弥生土器	甕	16.5	6	18.3	茶褐色//ハケ,ナデ	
60	82	SH-2	弥生土器	鉢	(11)			内)黄茶色 外)茶色/ナデ	
61	84	SH-2	弥生土器	壺				茶褐色/外)ハケ,ナデ	
62	83	SH-2	弥生土器	甕				茶色/ナデ	
63	64	SH-2	弥生土器	甕				茶褐色/内)ナデ 外)ハケ	
64	34	SH-2	弥生土器	甕又は壺				白っぽい黄茶色	
65	87	SH-2	弥生土器	甕又は壺		(7)		茶褐色/外)ハケ	
66	62	SH-2	弥生土器	甕又は壺		7.2		褐色/外)ハケ	
67	9	SH-2	弥生土器	甕		6.1		茶褐色/内)指押さえ,ナデ 外)ハケ	
68	26	SH-2	弥生土器	甕又は壺		6.8		淡黄茶色/内)ハケ,指押え 外)ハケ	
69	33	SH-2	弥生土器			6		黄茶褐色	
70	61	SH-2	弥生土器	甕又は壺		7.5		茶色/外)ハケ	
71	38	SH-2	弥生土器	鉢	9.7	5.4	7	暗茶色/外)ハケ	
72	72	SH-2	弥生土器	鉢	11.5	6	4.5	茶色/内)指押え,ハケ 外)ハケ,ナデ	
73	5	SH-2	弥生土器	器台?	8.1	5	4.5	茶褐色	
74	46	SH-2	弥生土器	器台	(13)			淡黄茶色/内)ハケ 外)ハケ,ナデ	
75	58	SH-2	ミニチュア土器					内)やや赤みのある淡茶色 外)淡茶色	ミニチュア土器の内部に粘土質の土を充填している可能性が高い
76	76	SH-2	縄文土器					茶褐色	
77	107	SH-3	弥生土器	鉢		4.5		暗黄茶色/内)ナデ 外)ハケ,ナデ	
78	94	SH-3	弥生土器	壺				内)茶色 外)茶褐色/内)ナデ	
79	93	SH-3	弥生土器	壺				内)茶色 外)茶褐色/内)指圧痕 外)突帯に刻目	最大径は30cmを超えるか
80	110	SH-3	弥生土器	壺か				内)淡黄褐色 外)赤褐色	赤色顔料が塗布される
81	57	SH-3	弥生土器	無形壺	8.7	6	16.6	黄茶色/内)指押え,ナデ 外)ハケ	
82	159	SH-3	弥生土器	甕	17.5	4.2	14.8	内)茶色 外)暗茶色	
83	99	SH-3	弥生土器	甕	(20)			茶褐色/内)ハケ 外)へら調整,ハケ,ナデ	
84	14	SH-3	弥生土器	甕又は壺	23			内)黄茶褐色 外)茶褐色/外)ハケ,ナデ	
85	109	SH-3	弥生土器	甕				暗黄茶色/内)ハケ 外)ハケ目,突帯ナデ	
86	60	SH-3	弥生土器	甕	(19)			内)淡茶褐色 外)茶褐色/ハケ	87と同固体か
87	59	SH-3	弥生土器	甕				内)茶褐色 外)茶色/ハケ	86と同固体か
88	37	SH-3	弥生土器	甕又は壺		6.8		内)白っぽい黄茶色 外)暗茶色/内)ナデ 外)ハケ,ナデ	
89	13	SH-3	弥生土器	甕又は壺		8.8		内)淡茶色 外)黒茶色/内)指押え 外)ナデ	

遺物	実測	出土遺	種類	器種	口径	低径	器高	色調/調整	備考
90	112	SH-3	弥生土器	甕又は壺		(6.9)		淡黒茶色/内)ハケ 外)ハケ,ナデ	
91	36	SH-3	弥生土器	高坏				淡黄褐色	
92	40	SH-3	弥生土器	高坏				内)暗黄茶色 外)暗赤茶色	
93	48	SH-3	弥生土器	鉢				内)黒茶色 外)暗黄茶色/ナデ	
94	106	SH-3	弥生土器	鉢	15.3			暗黄茶褐色/内)ナデ	
95	113	SH-3	弥生土器	鉢				淡黄茶色/内)ヘラ調整,ナデ 外)ハケ,ナデ	
96	156	SH-3	弥生土器	器台		(7.9)		黄茶色/内)ヘラ調整,ナデ 外)ナデ	厚みは均一でなく歪んでいる
97	102	SH-3	弥生土器	器台				内)淡黄褐色 外)赤褐色/外)ハケ	赤色顔料が塗布
98	101	SH-3	弥生土器	壺か				内)暗黒茶 外)赤褐色/内)ナデ	赤色顔料が塗布
99	11	SH-4	弥生土器	壺	20.4			淡黄茶色	複合口縁
100	25	SH-4	弥生土器	壺	18.3			内)淡黄茶色 外)黄茶色/内)ナデ 外)ヘラナデ	
101	89	SH-4	弥生土器	壺				黄茶色	胴部最大径34.6cm
102	1	SH-4	弥生土器	甕又は壺		6.9		茶褐色/内)指押え 外)ナデ	
103	20	SH-4	弥生土器	甕又は壺		7.3		淡茶色	
104	95	SH-4	弥生土器	壺				淡茶褐色/外)突帯に刻目,ハケ,ナデ	
105	3	SH-4	弥生土器	甕	28.3			内)黒茶色 外)茶褐色/外)ナデ	
106	2	SH-4	弥生土器	甕				茶褐色/ナデ	
107	74	SH-4	弥生土器	甕				褐色/ナデ	推測最大口径は40cmを超える
108	4	SH-4	弥生土器	甕				茶褐色/外)ナデ	
109	70	SH-4	弥生土器	甕				淡黄茶褐色/ナデ	
110	75	SH-4	弥生土器	甕		5.7		淡茶褐色/外)ハケ	
111	30	SH-4	弥生土器	甕又は壺	7.1			内)淡黄茶色 外)淡黄褐色	
112	31	SH-4	弥生土器	甕又は壺		7		内)淡黄褐色 外)白っぽい黄茶褐色/外)ハケ	
113	88	SH-4	弥生土器	器台	(11)			茶褐色/内)ナデ 外)ハケ,ナデ	
114	65	SH-4	縄文土器					内)茶色 外)茶褐色/外)指圧痕	
115	153	SH-4	縄文土器					茶色	
116	158	SH-6	弥生土器	甕	(25)			内)茶色 外)暗茶色/内)ナデ 外)ハケ,ナデ	
117	157	SH-6	弥生土器	甕又は壺		(7.1)		淡黄茶色/外)ハケ	
118	85	SH-5	弥生土器	甕		(10.2)		茶色/内)ナデ 外)ハケ	
119	52	SH-6	弥生土器	甕又は壺		7.8		淡茶色	
120	86	SH-6	弥生土器	壺				内)茶色 外)淡黄茶色/内)ナデ 外)ハケ	
121	53	SH-6	弥生土器	甕				茶褐色	
122	78	SH-5	弥生土器	高坏	(34)			やや淡い褐色/内)ハケ,ナデ 外)ナデ	
123	54	SH-6	弥生土器	高坏		(30)		内)赤みのある灰茶色 外)淡黄茶色	
124	6	SH-5	弥生土器			5.1		内)淡茶色 外)茶褐色/内)ハケ,ナデ 外)ハケ	
125	24	SH-5	弥生土器	鉢	10.4			淡黄茶色/内)指押え	手づくね?
126	51	SH-6	弥生土器	器台	(8.2)	9	15.8	淡茶褐色/内)ヨコナデ 外)ハケ	
127	7	SH-5	模倣須恵器?	蓋	14			内)淡茶色 外)黒茶色/内)ナデ 外)ケズリ後ナデ,回転ナデ	
128	160	SH-6	縄文土器	鉢				淡黄茶色	
129	152	SH-6	縄文土器					茶色	
130	80	SK-7	弥生土器	甕	(22)			茶褐色/内)ナデ 外)ハケ,ナデ	
131	98	SK-7	弥生土器	甕	(27.7)			褐色/外)ハケ,ナデ	

遺物	実測	出土遺	種類	器種	口径	低径	器高	色調/調整	備考
132	96	SK-7	弥生土器	甕	(28)			淡茶色	
133	66	SK-7	弥生土器	甕	(32)			褐色	
134	10	SK-7	弥生土器	壺				黄茶褐色/内)指押え 外)ハケ後ナデ	
135	73	SK-7	弥生土器	甕				茶褐色/内)ナデ 外)ハケ,沈線あり	
136	81	SK-7	弥生土器	甕又は壺		6.7		茶褐色/外)ハケ	
137	67	SK-7	弥生土器			8		茶褐色/外)ハケ	
138	79	SK-7	弥生土器	甕又は壺		7.2		内)茶色 外)茶褐色/内)ナデ 外)ハケ,ナデ	
139	97	SK-7	弥生土器	鉢か				黄茶褐色/外)ナデ	
140	90	SX-5	弥生土器	甕	(22.3)			茶色/外)ナデ	
141	154	SX-13	弥生土器	甕				やや淡い茶色/外)ナデ	
142	55	SX-11	弥生土器	甕又は壺		8.5		内)淡黄茶色 外)黄茶色	
143	21	SX-3	弥生土器	甕又は壺		6.9		外)淡黄茶色/外)ナデ	
144	35	SX-12	弥生土器			8.6		内)淡黄茶色 外)淡黄褐色/外)ハケ目後ナデ	
145	91	SX-5	弥生土器	甕又は壺		8.2		茶色/外)ハケ	
146	29	SH-4	弥生土器	甕		5.4		内)淡黄褐色 外)淡黄茶色/外)タテハケ,ナデ	
147	27	SX-3	弥生土器	甕		5.8		内)黄茶色 外)淡黄茶褐色	
148	50	SH-7	弥生土器	ミニチュア土器		1.8		淡黄茶色/内)指押え 外)ナデ	
149	77	SX-8	縄文土器					内)茶色 外)茶褐色	

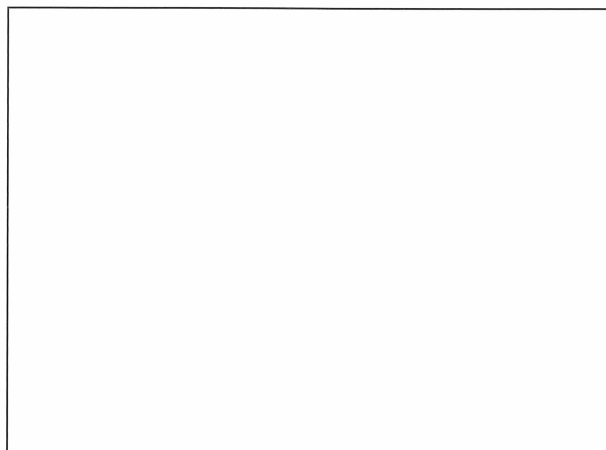
西山ノ上遺跡（4次調査）遺物観察表

遺物	実測	出土遺	種類	器種	材質	色調	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(cm)	備考
150	114	SH-1	石製品	石庖丁	片岩	やや茶色がかった灰色	9.2	4.3	0.7	42.0	
151	117	SH-1	石製品	石庖丁	片岩	灰色	10.2	4.7	0.6	54.8	
152	116	SH-2	石製品	石庖丁	片岩か	白っぽい灰色	6.0	4.9	0.7	29.5	
153	115	SH-4	石製品	石庖丁	砂岩	黄色がかった淡い茶色	7.7	5.3	0.4	31.8	
154	164	SX-23	石製品	柱状片刃石斧	粘板岩	灰色	4.0	2.8	1.0	8.3	刃先の側面部分か
155	163	SH-2	石製品	砥石	砂岩	やや茶色がかった灰色	11.1	8.0	1.4	140.0	砥石の端部が剥離したものか？
156	166	SH-4	石製品	砥石	砂岩	灰茶褐色の混じる乳白色	5.7	3.2	1.6	35.9	
157	167	SH-4	石製品	石鏃	サヌカイト	灰色	3.4	2.4	0.8	2.7	
158	170	SH-4	石製品	石鏃	黒曜石	黒色	1.9	2.1	0.4	1.1	
159	169	SH-1	石製品	石鏃	黒曜石	黒色		1.4	0.2	1.0	
160	172	SH-3	石製品	石鏃	サヌカイト	暗灰色	1.9	1.8	0.5	1.3	
161	171	SH-3	石製品	石鏃	黒曜石	黒色	1.9	1.3	0.3	0.6	
162	173	SH-4	石製品	石鏃	サヌカイト	暗灰色	2.4	1.4	0.5	1.4	
163	168	SX-1	石製品	石鏃	サヌカイト	灰色	3.1	0.9	0.5	2.0	
164	165	SH-2	石製品	石匙	サヌカイト	灰色	4.7	7.0	1.1	43.6	
171	161	SH-1	石製品	砥石	片岩	やや茶色がかった淡灰色	37.6	18.7	5.4		
172	162	SH-3	石製品	砥石	片岩	やや淡い灰色	45.0	22.5	4.2		

PLATES

凡例

出土遺物に関する PL の記載は、以下の要領となっている。



遺構名

掲載番号



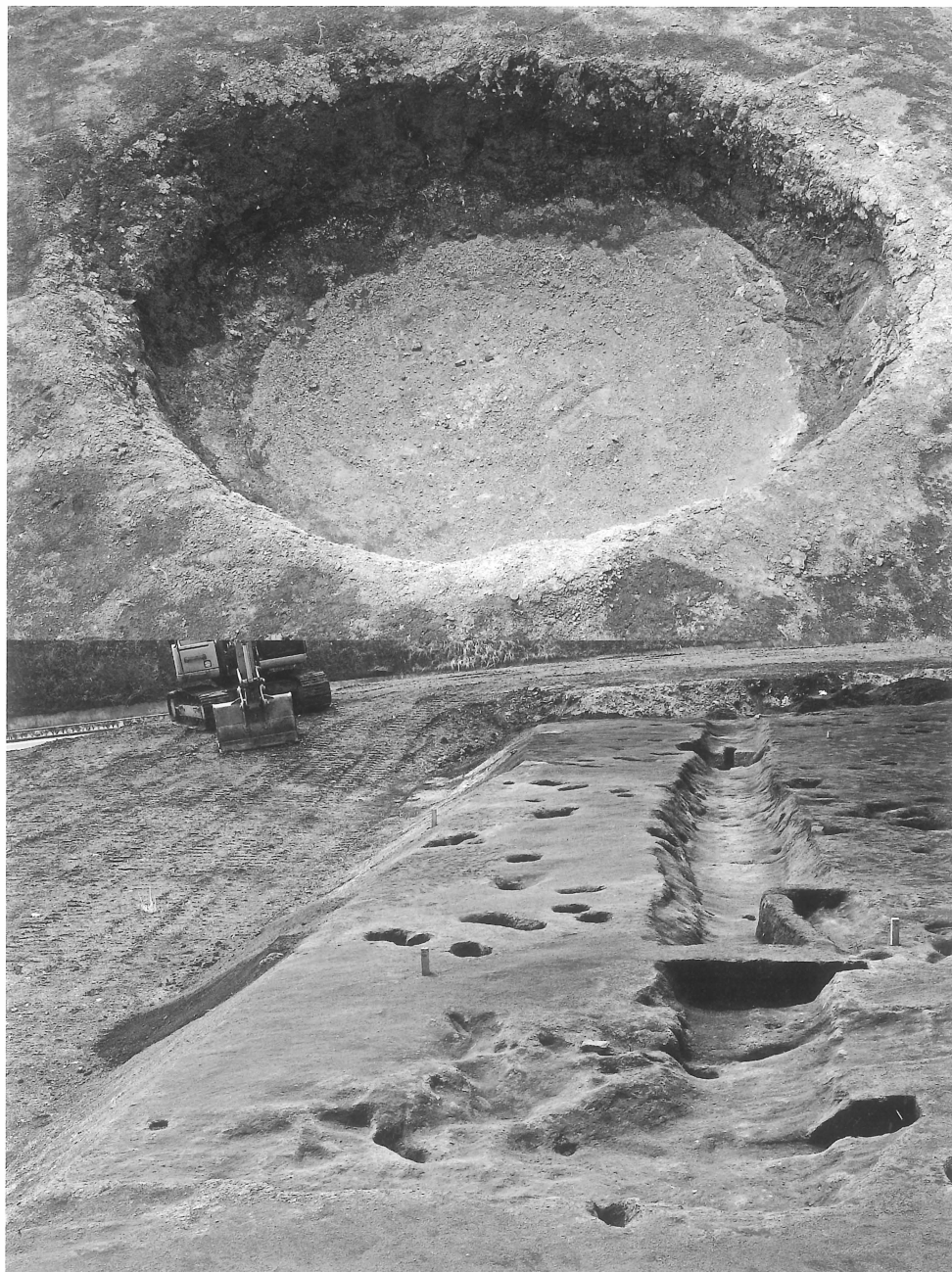
1. 1号竪穴住居
北から



2. 5号竪穴住居
北西から



3. 1号井戸
東から



4. 2号土壙
東から

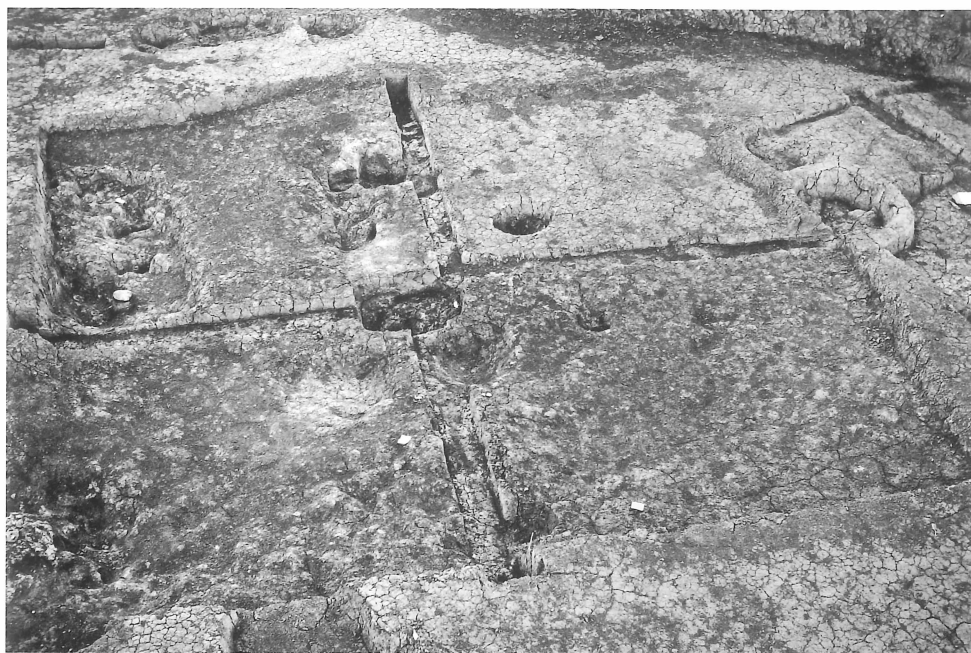
5. 4号溝状遺構
北から



6. 4次調査全景
南から



8. 1号竪穴住居
砥石



9. 2号竪穴住居
東から



10. 3号竪穴住居
北東から



11. 3号竪穴住居
屋内土壇



12. 4号竖穴住居
南から



13. 5号竖穴住居
南西から



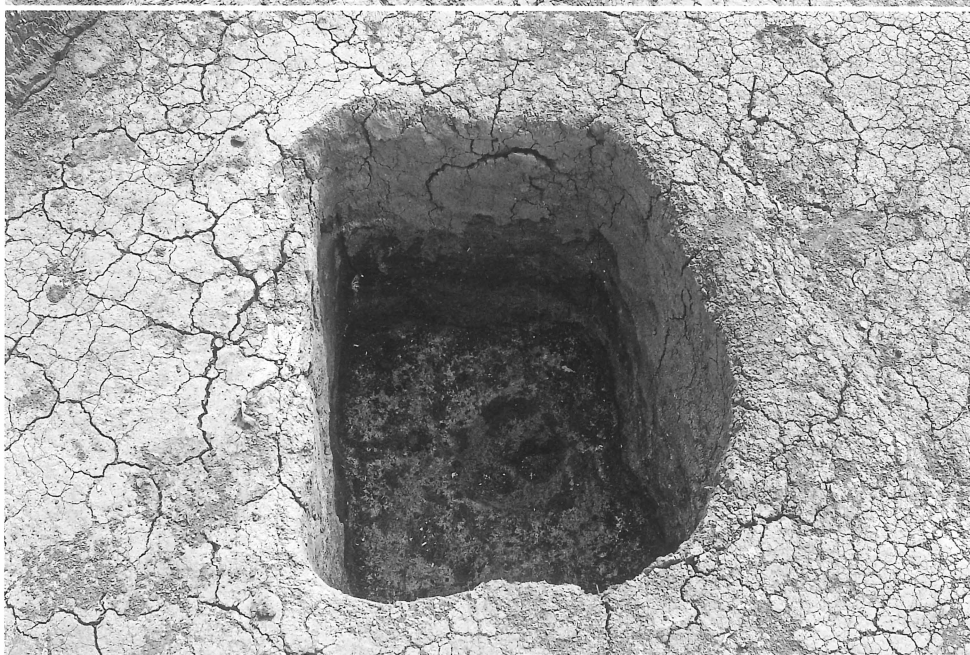
14. 7号竖穴住居
南から



15. 7号土壙
南東から



16. 8号土壙
東から



17. 9号土壙
東から



5号竪穴住居



2 5号竪穴住居



3 5号竪穴住居

6



1号井戸



7 1号井戸



9 1号井戸

12



1号井戸



16 1号井戸



19 1号井戸

24



1号井戸



26 1号井戸



29 1号井戸

30

3次調査出土遺物



1号竖穴住居

49



1号竖穴住居

51



1号竖穴住居

52



1号竖穴住居

53



1号竖穴住居

55



2号竖穴住居

59



2号竖穴住居

66



2号竖穴住居

70



2号竖穴住居

72



2号竖穴住居

75



3号竖穴住居

81



3号竖穴住居

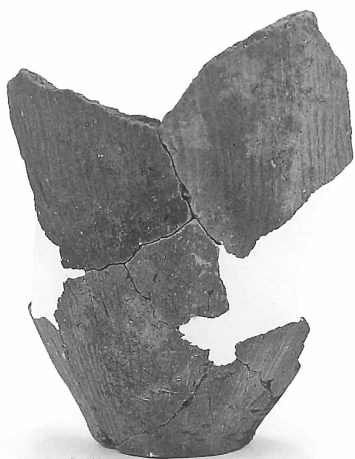
82

4次調査出土遺物

PL 9



3号豎穴住居



85 3号豎穴住居



87 4号豎穴住居

96



4号豎穴住居



99 4号豎穴住居



103 4号豎穴住居

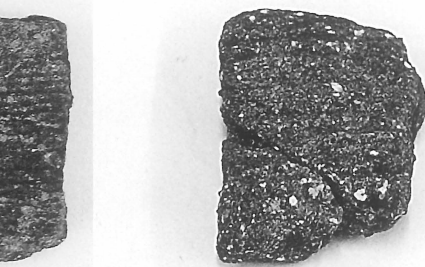
107



4号豎穴住居



110 4号豎穴住居



114 4号豎穴住居

115



4号豎穴住居



116 4号豎穴住居



117 4号豎穴住居

118

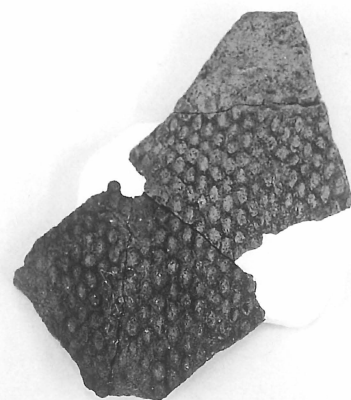
4次調査出土遺物



5号竖穴住居



1 2 4 6号竖穴住居



1 2 6 6号竖穴住居 1 2 8



7号土壙



1 3 4 7号土壙



1 3 6 7号土壙 1 3 7



7号土壙



1 3 8 3号土壙



1 4 7 7号竖穴建物 1 4 8



2号竖穴住居



7 3 8号不明遺構



1 4 9 1号竖穴住居 1 4 9

4次調査出土遺物



1号竖穴住居



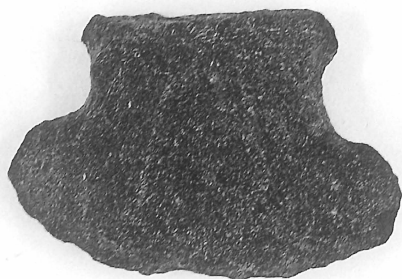
149 23号不明遺構



138 2号竖穴住居



155



2号竖穴住居

164



1号竖穴住居



171 3号竖穴住居
4次調査出土遺物

172

報 告 書 抄 録

ふ り が な		にしまのうえいせき						
書 名		西山ノ上遺跡（3・4次調査）						
副 書 名		福岡県八女市室岡所在遺跡の発掘調査報告書						
巻 次								
シ リ ー ズ 名		八女市文化財調査報告書						
シリーズ番号		第 99 集						
編 著 者 名		永 田 寧						
編 集 機 関		八女市教育委員会						
所 在 地		834-8585 福岡県八女市本町647 TEL0943-23-1982						
発行年月日		西暦 2013年3月31日						
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所 在 地	コ ー ド		北緯 。 ’ ”	東経 。 ’ ”	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
にしま の うえ 西山ノ上遺跡 （3・4次調査）	ふくおかけん 福岡県 や め し むろおか 八女市室岡 あざにしま の うえ 字西山ノ上	402109		33°21'56"	130°53'06"	3 次 2011 01 08 ） 2011 03 31	約 1,600㎡	土取り作業
						4 次 2011 05 27 ） 2011 07 27	約 200 ㎡	宅地造成
所収遺跡名	種別	主な時代	主 な 遺 構		主 な 遺 物		特 記 事 項	
西山ノ上遺跡 （3・4次調査）	集 落	弥生時代 鎌倉時代 平安時代	竪穴住居 貯蔵穴 環濠 溝状遺構 土壇 柱穴		弥生式土器 石器 陶磁器 鉄器・鉄片類 砥石		弥生時代前期～中期 の集落跡	

西山ノ上遺跡
(3次・4次調査)

八女市文化財調査報告書 第99集

平成25年3月31日

発行 八女市教育委員会
八女市本町647

印刷 橋爪印刷
八女市吉田1899-1